

本報告書は、関西学院大学経営戦略研究科において2012年度に開講された授業についての学生及び教員による評価アンケート結果をまとめたものである。授業評価アンケートを実施した授業科目は、原則的に2012年度に開講された371講義である。2012年度の授業評価アンケート調査実施対象授業科目の履修登録者数は3,892人（延べ人数、以下同じ）で、実際にアンケート調査を回答した者は3,498人であり、アンケート調査の回答率は89.9%であった。

学生による評価アンケートは、設問1から設問9が「教員の授業内容と方法」について、設問10と設問11が「学生自身の取り組み」について、設問12から設問14が「授業の満足度」についての質問となっており、5段階評価で回答することとなっている。

経営戦略専攻企業経営戦略コースの学生の今回のアンケート結果について分析すると、授業への満足度を問う設問13の「この授業は全般的に満足のものでしたか」のスコアは、通年で4.25、春学期が4.23、秋学期が4.27となっており、春学期、秋学期、通年とも、学生からの評価の水準は概ね高い水準を維持しているといえる。

他方、過去から見られている全般的な傾向として、教員の授業内容や方法、授業の満足度についての設問のスコア（設問1～9、設問12～14）に比較して、学生自身の取り組みについて問うている設問10の「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」および設問11の「この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか」のスコアが低いことがあげられる。この傾向は、2012年度も続いており、今回も通年でそれぞれ3.97、3.73となり悪化した。今後も継続的な努力が求められる部分である。

また、2012年度は、各設問に対するスコアは、わずかではあるが前年度より下回った傾向が見られる。通年で見ると、設問7と設問14以外は、前年度より少し低くなっている。また、過去4年の平均と比較しても、通年の平均値は設問14を除いて下回っている。スコアの水準自身は概ね高いものであり、全般としては大きな問題ではないと考えるが、コア科目群の平均が、例年に比較して低い傾向となっていたことが影響したものと考えられる。コア科目は、科目数が少ないため、コア科目群全体としてのスコアは、科目数の多いアドバンスト科目群などに比べて、年度ごとの平均値の変化が大きくなりやすい。そういったコア科目群の特徴については十分に考慮しながらも、各担当教員が継続的に努力することが求められるであろう。コア科目群の平均値に関しては、来年度以降も、引き続きチェックしていくべきと考えられる。

経営戦略専攻企業経営戦略コース所属教員による担当科目の自己評価からは、教員は教科を教えるにあたっての様々な工夫や努力を行っており、科目を担当するにあたって当初

予定していた目標や自身の思っていた目標は概ね達成されたと考えていることがわかった。

また、「必ずしも履修意欲が高くない学生」「基礎学力不足の受講生」「問題意識の低い履修生」に対する指導や、積極的に討論をしかけたり、学生の主体的関与を促すような指導に対する問題意識を持つ回答が複数みられた。

経営戦略専攻国際経営コースの学生による授業評価結果は、多くの質問項目の平均値が4点台、「Strongly agree」と「Agree」との間の値となっており、概ね良好であった。しかし、過去2年との比較をしてみると2011年度よりも全体的に評価が下がっており、2010年度の評価に逆戻りしている傾向が見受けられる。この2011年からの低下傾向が一時的なものであるか、学生の数の減少や、国籍構成の変化によるかは不明であるが、今後の評価の傾向を注視すべきである。

個々の質問項目の評価点を詳細に分析すると、質問項目3「The instructor's knowledge level was high enough to teach the course.」においては4.63、質問項目2「The instructor was well prepared for the classes.」、質問項目5「The instructor encouraged students comment and discussion.」においては4.47という高い評価点が見受けられる。これらの教員に対する学生の高い評価は、教員全体が継続的な教育の向上を目指した結果の反映であると考えられる。

一方、比較的低い評価であったのは、質問11「You made additional efforts for the course such as searching related materials for course topics.」の4.15、質問8「The course was well organized in terms of contents and time allocation.」の4.18であった。上記質問11に関してはコースに対する学生の姿勢に対する評価であり、学生の勉学意欲が低下していること、就職活動時期やIndividual Researchの時期と重なり、勉学に十分な時間をとることに学生が苦勞しているのではないかと考えられる。

経営戦略専攻国際経営コース所属教員による担当科目の自己評価からは、授業評価の結果が秀でていた科目では、昨年同様、視聴覚教材やゲストスピーカーなど多様な素材を授業で活用したコース、学生が興味を持てる事項や現実の社会情勢を授業に織り交ぜたコースなどが、学生のニーズを的確に捉え満足度向上に貢献しているとの結果が見受けられた。

一方で、今後の改善点としては、学生に授業に対して十分な準備をするための工夫ができなかったという回答、グループ議論を活発化させることが大変であるという回答などが注目される。学生の全体数が減少する中、教員と学生とのコミュニケーションは活発化した一方で、学生間の議論の盛り上がりの欠如と、互いの勉学意欲の啓蒙・研鑽に欠けているとの印象を持った教員が多くいた。

昨年の評価でも指摘されているが、受講学生の予備知識の統一に関しては、IMC 内での制度的な取り組みが必要かもしれない。また、国際経営コースは、コース選択の自由度が大きく柔軟なカリキュラム制度であるという強みの一方でクラス内での学生知識レベルのばらつきが大きいといった弱点がある。この弱点を克服するため、アドバンスコース選択の前の prerequisite 化を検討する必要があるかもしれない。

来年 2014 年度に全体コースの再編成がなされ、科目間の単位、時間の統一が行われ、ベーシックとアドバンスの科目履修の重複が解消される。そのカリキュラム改変後の評価結果を分析したうえで、制度を見直すかどうか判断をするべきであると思われる。

会計専門職専攻の学生によるアンケートの専攻平均値は、2007 年度秋学期まで上昇し続けた後、2008 年度秋学期まで 4.4 ないし 4.5 という値を記録し、その後も、2011 年度まで 4.3 から 4.5 で安定的な推移をしてきた。そして、2012 年度においては 4.6 と、春学期と秋学期ともに、開設以来最も高い値となった。総合的な評価としては高位での安定が図られているものといえよう。

「教員の授業内容と方法」についての設問は、専攻全体の平均値は、設問 7 を除いて、前年度に比して上昇している。特に、設問 1 から設問 3 では、春学期、秋学期ともに 4.8 以上となっており、設問 4 と設問 9 では 4.7 となっている。したがって、担当科目についての資質を有する教員が、シラバスに沿って、資料の作成等を含む十分な準備をして授業に臨んでいることについて、学生から高い評価を得ているといえる結果となっている。設問 5 から設問 8 についても、2011 年度において 0.2 ポイント程度上昇し、2012 年度においても、全般的に上昇している。したがって、授業の方法に関する教員の取り組みに対する評価も高まってきているといえる。

「学生自身の取り組み」を問う設問 10 と設問 11 は、前年同期ベースで、いずれもこれまでで最も高い値となっており、学生自身の予習・復習の取り組み、自分から文献を探すなどの努力について改善したことがうかがえる。ただし、他の設問に比して、いぜん低い値である。これは、学生自身の謙虚な姿勢が表れている可能性があるものの、予習・復習、課題を含めた授業全体の実践に改善の余地があるものともいえ、今後も注視すべき値である。なお、春学期と秋学期を比較すると、春学期での評価が低い傾向にある。春学期入者と秋学期入者との間にキャリアやバックグラウンドの違いがあることが考えられる。

会計専門職専攻の所属教員に対する担当科目の自己評価から観察できる全体的な傾向を科目群別に整理すると、おおよそ以下のようにまとめることができる。

多人数相手の講義形式が中心のコア・ベーシック科目では、学生の授業の理解度を確認

するために、小テストを複数回実施する教員が多かった。また、市販のテキストよりは自作のレジュメをもとにして授業を行う教員が多かった。他には、講義形式ではあるが学生に発言を求める教員が多く、これは講義形式であっても双方向的な授業を志向している教員が多いと考えられる。

少人数相手の講義や演習形式が中心のアドバンスト科目では、実務経験のない学生の興味関心を惹くために参照する実例を身近な例にしたり、積極的に授業に参加させるためにグループワークやグループディスカッションを取り入れたりするなど工夫している教員が多かった。

さらに、担当科目自己評価表から観察されるその他の全体的な傾向を箇条書きでまとめると次のようになる。

- ・受講生にとって初めて学習する分野の授業（もっと入門的な授業が存在していない授業）では、その分野の基礎的・体系的な知識、基本的な問題演習が解ける能力などを身につけさせようとする回答が目立った。
- ・「実施してよかった点」では小テストや課題レポートなどを実施したことを挙げる回答が多かった。
- ・実務や実例が重視される授業では、理論と実例とのバランス配分に苦慮している教員が多かった。特に、社会人学生と、学部から進学してきた学生が混在しているクラスで実務に関する授業を行う場合、社会人学生には常識的な知識であっても学部進学生には良く分からないことも多いので苦労しているようである。
- ・受講生間で理解度や能力に大きな格差が生じており、授業の難易度や進む速さについて苦慮している回答が多かった。特に、学習意欲に欠ける学生に対して積極的な学習を促すにはどのように働きかければ良いかについて悩む回答が多くみられた。
- ・双方向性のある授業を志向している教員が多かった。
- ・計算問題が重視される科目では、問題演習を盛んに実施している。

1. 授業評価の目的

学校教育法の改正により、大学・大学院において第三者評価が義務づけられ、専門職大学院においては5年に1回の第三者による認証評価を受けることが求められている。大学・大学院に対する第三者評価制度の導入は、自己点検・評価とともに教育研究水準の継続的な向上を目的としたものである。本学は「授業を通じた知的活性化」を全学的目標として掲げている。また、本経営戦略研究科は、教員の資質維持向上の方策のひとつとして、「授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等の実施」に取り組んでいる。

本研究科では、授業内容および授業方法の改善を図るため、各クォーターの最終授業時に、学生による授業に関するアンケートと教員の担当科目自己評価を実施することとしている。授業評価の目的は、本研究科学生の実態や現状、学生の授業に対する認識・反応などをアンケートから探り、その結果を分析することによって、教育の現場に反映させる基礎資料を作成し、ビジネススクールおよびアカウンティングスクール教育の質的向上を図るとともに、ビジネススクールおよびアカウンティングスクール教育固有の教学上の諸課題を把握し、解明することにある。ここで注目したいのは、この学生アンケートと並んで、授業担当者自身の授業についての自己評価を学生の評価に合わせて実施していることである。これは、学生のアンケート結果と同時に実施されており、各教員は学生の授業評価結果を見ない段階で授業を振り返ってアンケートの記入を行った。このような試みは、学生の評価と対照することでより良い授業のヒントが得られるものと思われる。

本報告書は、本経営戦略研究科において2012年度に開講した授業についての評価アンケート結果をまとめたものである。本報告書の構成は、エグゼクティブサマリー、2012年度授業評価アンケート結果概要・分析、授業評価アンケート実施科目一覧、授業評価アンケートフォーム、授業別評定平均値一覧、アンケート結果（アンケート授業別集計結果）およびグループ・インタビュー調査結果からなっている。

授業評価に関する調査の企画、調査票の作成、および集計結果についての分析と本報告書の執筆については、本研究科教授会のもとに設置された「経営戦略研究科自己評価委員会」のメンバーを中心として行われた。

調査の実施の方法等についての詳細は、以下の「調査実施方法及び期間等」のとおりである。今回の調査では、ほぼすべての授業科目および学生からの回答が得られた。アンケート実施に当たって、貴重な授業時間を割いていただいた各教員に感謝申し上げます。また、実際に回答を寄せていただいた学生諸君に深く謝意を表す。

2. 調査実施方法及び期間等

授業内容については、春学期（第1クォーター、第2クォーター、夏集中）・秋学期（第3

クォーター、第4クォーター、冬集中)の授業終了時に受講生による授業評価を実施している。本報告の対象となる授業評価アンケートの実施方法や実施期間等については、以下のとおりである。

(1) 実施対象授業科目について

授業評価アンケートを実施した授業科目は、原則的に2012年度に開講されたすべての講義である。本研究科全体でみた場合、アンケート実施対象科目(複数クラス開講分を含む)は、371講義(春学期189講義、秋学期182講義)である。その内訳は、経営戦略専攻が192講義(企業経営戦略コース116講義、および国際経営コース76講義)、会計専門職専攻が181講義であった。

(2) 回答者、回答率等について

2012年度の授業評価アンケート調査実施対象授業科目の履修登録者数は3,892人(延べ人数、以下同じ)で、そのうち、春学期が2,584人、秋学期が2,143人であった。また、実際にアンケート調査を回答した者は3,498人(春学期1,964人、秋学期1,534人)であり、アンケート調査の回答率は89.9%(春学期90.7%、秋学期88.8%)であった。

各専攻別の内訳は次のとおりである。経営戦略専攻の授業科目の履修登録者数は1,940人(企業経営戦略コース1,587人および国際経営コース353人)で、そのうち、春学期は1,028人(企業経営戦略コース842人および国際経営コース186人)、秋学期は912人(企業経営戦略コース745人および国際経営コース167人)であった。アンケート調査の回答者数については、1,783人(企業経営戦略コース1,447人および国際経営コース336人)であった。そのうち、春学期は935人(企業経営戦略コース761人および国際経営コース174人)、秋学期は848人(企業経営戦略コース686人および国際経営コース162人)であった。回答率は92.0%(企業経営戦略コース91.2%および国際経営コース95.2%)である。そのうち、春学期は91.0%(企業経営戦略コース90.1%および国際経営コース93.5%)、秋学期は93.0%(企業経営戦略コース92.1%および国際経営コース97.0%)であった。

また、会計専門職専攻の授業科目の履修登録者数は1,952人(春学期1,137人、秋学期815人)で、アンケート調査の回答者数は1,715人(春学期1,029人、秋学期686人)あり、その回答率は87.9%(春学期90.5%、秋学期84.2%)であった。

(3) 実施期間について

授業評価は、春学期、秋学期の授業終了時に実施してきた。2012年度の授業評価アンケートの実施期間だが、各クォーター開講科目については、原則として下記期間の7週目授業時に実施した。ただし、補講を実施した科目については、翌週の最終授業時に実施した。

また、各集中講義開講科目については、下記期間の最終授業時に実施した。

第1クォーター開講科目：2012年5月21日（月）～6月3日（日）

第2クォーター開講科目：2012年7月16日（月）～7月29日（日）

夏集中講義開講科目：2012年7月30日（月）～8月26日（日）

第3クォーター開講科目：2012年11月2日（金）～11月10日（土）

第4クォーター開講科目：2013年1月13日（日）～1月21日（月）

冬集中講義開講科目：2013年1月27日（日）～3月2日（土）

（4）アンケートの実施について

授業評価アンケートは、次の手順で実施した。

- ①授業評価アンケート時間は、最終授業時の授業終了前15分間とする。
- ②最終授業開始前に、授業評価アンケート用紙の入った封筒を、経営戦略研究科事務室にて担当者氏名と担当科目を確認のうえ受け取る。
- ③最終授業開始時に、「授業終了15分前に授業を終了し、授業評価アンケートを実施する」旨を受講者に伝える。
- ④授業終了15分前に、授業担当者は授業評価アンケート用紙を受講生に配布し、その場で直ちに回答するよう指示する。当該用紙の配布および回答の指示後、学生の自由な回答・記入を促進するため、授業担当者は教室から退室する。
- ⑤学生による授業評価である「授業に関するアンケート」は、質問項目数14～15で最高ポイントを5とし、それぞれ5段階評価のマークシートである。
- ⑥授業終了後、授業担当者は教室に戻って授業評価アンケート用紙を回収し、所定の封筒に入れて事務室に返却する。なお、受講者の自由な回答を促進するためにも、授業担当者は、授業評価アンケート用紙の回収時および回収後も当該アンケートは閲覧しない。
- ⑦「教員の担当科目自己評価表」については、事前に電子メールにて配布され、該当科目の成績報告書提出締切日までに経営戦略研究科事務室に提出（eメール可）した。
- ⑧「教員の担当科目自己評価表」は、次のような自由記述形式の3つの設問からなっている。
 1. 「この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか。」
 2. 「この科目において、実施してよかった点と改善・工夫をした方がよい点は何ですか。クラスで実施した小テストやレポートの内容、発問に対する学生の答え、学生の教員への質問などから総合してお答えください。(1)実施してよかった点、(2)改善・工夫をした方がよい点」
 3. 「この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたこと

を踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか。」

(5) 集計

2012年度の授業評価アンケートについては、実施授業科目のクラスごとに集計を行った。この「授業評価アンケート集計結果」は、各授業クラスの履修登録者数、回答者数（学年別、所属専攻別、出身学部別の回答者数）、各設問の有効回答数、有効回答数の平均値および専攻平均値が示される。このうち、各設問の有効回答数の平均値と専攻平均値は、グラフによって視覚的にも明示している。

授業評価アンケートには、自由記述に関する設問が3問ある（「この授業で良かったところを具体的に書いてください」、「この授業で変えてほしいところがあれば、具体的に書いてください」および「この授業に関連して気づいたことがあれば書いてください」）。学生による授業評価アンケート実施にあたっての基本的スタンスとして踏襲してきたように、この自由記述の回答内容については公表対象とせず、授業内容および方法の改善のための資料と資する目的から、授業担当者に配付している。

(参考) 2011年度からの学生アンケート調査票及び分析方法の変更点

学生へのアンケート調査は、2011年度からアンケート設問項目の内容の一部変更を行っている。具体的な変更点は、以下の通りである。

- ・設問14に新しく「この授業は今後の学習にとって有意義なものですか」、また15に「この授業は仕事に役立ちそうですか」を追加した。

3. 経営戦略専攻・企業経営戦略コース

A. 学生による授業評価アンケート

(1) 概観

現在の学生による授業評価アンケートの調査票は、2009年度春学期から使用されているものである。以下では、2012年度の授業評価アンケートの結果を、全科目群、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンスト科目群ごとに、同じ調査票が使用されている2009年度以降の結果と比較して分析する。表1から表4は、全科目群、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンスト科目群ごとに、回答の平均値（小数点第三位で四捨五入）を、春学期、秋学期、通年別に示したものである（年度の一番下にある「平均」は2009年度から2012年度の数字を平均したものである）。

まずは、2012年度の全科目群（表1）の評価を見てみる。春学期、秋学期、通年とも、

学生からの評価の水準は概ね高いものになっている。授業への満足度を問う設問 13 の「この授業は全般的に満足のものでしたか。」のスコアは、通年で 4.25、春学期が 4.23、秋学期が 4.27 となっており、高い水準を維持しているといえる。設問中最も高いスコアであるのは、設問 3 の「教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか」であり、2012 年度も通年で 4.68 と高い水準を保っている。過去から見られている全般的な傾向として、教員の授業内容や方法、授業の満足度についての設問のスコア（設問 1～9、設問 12～14）に比較して、学生自身の取り組みについて問うている設問 10 の「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」および設問 11 の「この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか」のスコアが低いことがあげられる。この傾向は、2012 年度も続いており、なかなか改善されない。今後も継続的な努力が求められる部分である。尚、2012 年度は、各設問に対するスコアは、わずかではあるが前年度より下回った傾向が見られる。通年で見ると、設問 7 と設問 14 以外は、前年度より少し低くなっている。また、過去 4 年の平均と比較しても、通年の平均値は設問 14 を除いて下回っている。スコアの水準自身は概ね高いものであり、全般としては大きな問題ではないと考えるが、以下でコア科目、ベーシック科目、アドバンスト科目ごとに分析することで、改善の余地があるのかを検討する。

表 1：全科目群（回答の平均値）

春学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.51	4.58	4.67	4.31	4.35	4.14	4.18	4.13	4.49	3.97	3.91	4.10	4.33	4.19
2010	4.59	4.59	4.73	4.45	4.48	4.23	4.27	4.28	4.57	4.03	3.88	4.15	4.39	4.24
2011	4.54	4.59	4.73	4.36	4.51	4.15	4.12	4.17	4.51	4.04	3.88	4.07	4.32	4.26
2012	4.38	4.47	4.67	4.30	4.42	4.10	4.19	4.12	4.47	3.97	3.73	4.01	4.23	4.32
平均	4.50	4.56	4.70	4.36	4.44	4.16	4.19	4.18	4.51	4.00	3.85	4.08	4.32	4.26

秋学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.58	4.57	4.71	4.43	4.39	4.20	4.28	4.32	4.54	4.03	4.01	4.15	4.39	4.30
2010	4.66	4.64	4.71	4.51	4.52	4.30	4.38	4.34	4.58	4.14	4.04	4.24	4.40	4.34
2011	4.56	4.58	4.71	4.42	4.46	4.27	4.27	4.27	4.59	4.00	3.92	4.17	4.40	4.27
2012	4.50	4.58	4.68	4.38	4.43	4.16	4.21	4.22	4.49	4.02	3.87	4.06	4.27	4.35
平均	4.58	4.59	4.70	4.43	4.45	4.23	4.28	4.29	4.55	4.05	3.96	4.16	4.36	4.32

通年

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.54	4.57	4.69	4.37	4.37	4.17	4.23	4.22	4.51	4.00	3.95	4.12	4.36	4.25
2010	4.62	4.61	4.72	4.48	4.49	4.26	4.32	4.31	4.58	4.08	3.95	4.19	4.40	4.29
2011	4.55	4.58	4.72	4.38	4.49	4.20	4.19	4.22	4.55	4.03	3.90	4.12	4.36	4.27
2012	4.44	4.52	4.68	4.34	4.42	4.13	4.20	4.17	4.48	4.00	3.80	4.03	4.25	4.34
平均	4.54	4.57	4.70	4.39	4.44	4.19	4.23	4.23	4.53	4.03	3.90	4.12	4.34	4.28

コア科目群(表 2)、ベーシック科目群 (表 3)、アドバンスト科目群 (表 4) のデータを見てみると、2012 年度は、コア科目群の平均が、例年に比較して低い傾向となっていた。通年で見ると、2012 年度の平均値はすべて前年度よりも低くなっている。また、過去 4 年の平均と比較しても、通年の平均はすべて下回っている。このようなコア科目における状況は、2012 年度の春学期および秋学期のどちらにも見られる。他方、ベーシック科目群、アドバンスト科目群については、そのような傾向は見られない。表 1 の全科目群で 2012 年度の平均値がやや低くなっていたのは、コア科目の平均値が低くなっていたことが影響したと考えられる。

コア科目は、担当する教員の狭義の専門分野よりもかなり幅広い分野をカバーしなければならないことも多く、そのあたりの事情はベーシック科目やアドバンスト科目とは異なっている。また、科目数が少ないため、コア科目群全体としてのスコアは、科目数の多いアドバンスト科目群などに比べて、年度ごとの平均値の変化が大きくなりやすい。そういったコア科目群の特徴については十分に考慮しながらも、各担当教員が継続的に努力することが求められるであろう。コア科目群の平均値に関しては、来年度以降も、引き続きチェックしていくべきと考えられる。

表 2 : コア科目群 (回答の平均値)

春学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.40	4.48	4.69	4.15	4.17	3.98	4.06	3.92	4.43	3.84	3.78	3.89	4.16	4.03
2010	4.46	4.42	4.59	4.39	4.18	3.96	4.10	3.92	4.39	3.93	3.79	3.86	4.10	3.98
2011	4.41	4.39	4.64	4.10	4.07	3.72	3.86	3.73	4.24	3.85	3.50	3.56	3.85	3.90
2012	4.01	4.12	4.47	3.87	4.06	3.57	3.78	3.69	4.19	3.71	3.32	3.47	3.63	3.80
平均	4.32	4.35	4.60	4.13	4.12	3.81	3.95	3.81	4.31	3.83	3.60	3.69	3.93	3.93

秋学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.55	4.48	4.69	4.38	4.03	3.82	4.03	4.13	4.39	3.95	3.86	3.86	4.16	4.03
2010	4.72	4.68	4.78	4.52	4.25	4.10	4.35	4.34	4.57	4.20	3.96	4.10	4.29	4.15
2011	4.49	4.41	4.64	4.38	4.15	4.03	4.09	4.07	4.46	4.01	3.90	3.99	4.19	4.08
2012	4.08	4.13	4.35	3.78	3.84	3.59	3.84	3.82	4.08	3.66	3.38	3.57	3.65	3.80
平均	4.46	4.43	4.61	4.26	4.07	3.88	4.08	4.09	4.38	3.95	3.77	3.88	4.07	4.02

通年

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.45	4.48	4.69	4.24	4.12	3.92	4.05	4.00	4.42	3.89	3.81	3.88	4.16	4.03
2010	4.58	4.54	4.68	4.45	4.21	4.03	4.21	4.11	4.47	4.05	3.87	3.97	4.19	4.06
2011	4.45	4.40	4.64	4.25	4.11	3.89	3.98	3.91	4.36	3.94	3.71	3.79	4.03	4.00
2012	4.04	4.12	4.42	3.83	3.98	3.58	3.81	3.74	4.15	3.69	3.34	3.51	3.64	3.80
平均	4.38	4.39	4.61	4.19	4.10	3.85	4.01	3.94	4.35	3.89	3.68	3.79	4.00	3.97

表 3 : ベーシック科目群 (回答の平均値)

春学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.49	4.53	4.57	4.25	4.30	4.05	4.11	4.06	4.39	3.97	3.85	4.05	4.28	4.18
2010	4.61	4.60	4.78	4.45	4.54	4.22	4.23	4.28	4.60	4.04	3.82	4.17	4.41	4.21
2011	4.53	4.63	4.75	4.38	4.57	4.15	4.00	4.18	4.51	4.01	3.76	4.06	4.36	4.31
2012	4.38	4.55	4.72	4.38	4.47	4.16	4.18	4.16	4.45	3.98	3.65	4.08	4.32	4.41
平均	4.50	4.58	4.70	4.36	4.47	4.14	4.13	4.17	4.49	4.00	3.77	4.09	4.34	4.28

秋学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.60	4.54	4.67	4.39	4.27	4.10	4.19	4.22	4.38	3.99	3.83	4.10	4.33	4.27
2010	4.65	4.67	4.75	4.50	4.53	4.29	4.32	4.29	4.51	4.04	3.79	4.27	4.41	4.35
2011	4.50	4.59	4.73	4.38	4.57	4.21	4.22	4.27	4.60	3.90	3.73	4.18	4.34	4.23
2012	4.61	4.67	4.77	4.52	4.46	4.23	4.24	4.24	4.51	4.11	3.81	4.15	4.35	4.48
平均	4.59	4.62	4.73	4.45	4.46	4.21	4.24	4.26	4.50	4.01	3.79	4.18	4.36	4.33

通年

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.54	4.54	4.61	4.31	4.29	4.07	4.14	4.13	4.39	3.97	3.84	4.07	4.30	4.21
2010	4.63	4.63	4.77	4.47	4.54	4.24	4.26	4.28	4.57	4.04	3.81	4.20	4.41	4.26
2011	4.52	4.61	4.74	4.38	4.57	4.17	4.07	4.21	4.54	3.97	3.75	4.10	4.35	4.28
2012	4.48	4.60	4.74	4.44	4.47	4.19	4.21	4.19	4.48	4.04	3.72	4.11	4.33	4.44
平均	4.54	4.59	4.72	4.40	4.47	4.17	4.17	4.20	4.49	4.00	3.78	4.12	4.35	4.30

表 4 : アドバンスト科目群 (回答の平均値)

春学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.62	4.71	4.77	4.51	4.56	4.39	4.37	4.39	4.65	4.07	4.07	4.32	4.53	4.35
2010	4.64	4.67	4.74	4.48	4.56	4.39	4.42	4.48	4.64	4.07	4.01	4.27	4.54	4.42
2011	4.61	4.63	4.75	4.46	4.64	4.34	4.36	4.36	4.63	4.16	4.17	4.31	4.50	4.38
2012	4.60	4.63	4.77	4.51	4.60	4.39	4.45	4.35	4.67	4.12	4.07	4.28	4.52	4.58
平均	4.62	4.66	4.76	4.49	4.59	4.38	4.40	4.40	4.65	4.11	4.08	4.29	4.52	4.43

秋学期

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.57	4.61	4.74	4.47	4.58	4.38	4.42	4.45	4.68	4.09	4.17	4.28	4.51	4.41
2010	4.64	4.61	4.67	4.50	4.61	4.38	4.42	4.36	4.62	4.18	4.20	4.28	4.43	4.40
2011	4.64	4.67	4.74	4.46	4.58	4.44	4.40	4.39	4.66	4.06	4.04	4.27	4.55	4.40
2012	4.58	4.67	4.74	4.50	4.61	4.31	4.31	4.36	4.61	4.10	4.06	4.18	4.44	4.47
平均	4.61	4.64	4.72	4.48	4.60	4.38	4.39	4.39	4.64	4.11	4.12	4.25	4.48	4.42

通年

年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
2009	4.59	4.65	4.75	4.48	4.57	4.39	4.40	4.42	4.67	4.08	4.13	4.29	4.52	4.38
2010	4.64	4.63	4.70	4.49	4.59	4.39	4.42	4.42	4.63	4.13	4.11	4.28	4.48	4.41
2011	4.62	4.65	4.75	4.46	4.62	4.39	4.38	4.38	4.65	4.12	4.11	4.29	4.53	4.39
2012	4.59	4.65	4.75	4.51	4.61	4.34	4.37	4.35	4.64	4.11	4.07	4.22	4.47	4.52
平均	4.61	4.65	4.74	4.49	4.60	4.38	4.39	4.39	4.65	4.11	4.10	4.27	4.50	4.43

(2) 科目別学生満足度

表5は、コア科目、ベーシック科目、アドバンスト科目の科目群別に、設問12の「この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか」、設問13の「この授業は一般的に満足いくものでしたか」、設問14の「この授業は今後の学習にとって有意義なものでしたか」の科目ごとの平均（小数第3位で四捨五入）をまとめたものである。各科目の授業は、履修人数、受講する学生等、それぞれの個別の状況や事情の下で行われる。したがって、科目別の平均点について、本当に適切な解釈ができるのは、授業内容、受講した学生、履修人数等を総合的に理解している担当教員自身である。個々の教員がそれぞれの状況を考慮して分析し、今後の授業に活かしていく必要があるだろう。

表5：科目ごとの回答の平均値

春学期・コア科目

科目名	クラス	履修者数	設問12	設問13	設問14
企業倫理	1	33	3.13	3.17	3.20
経営学	1	38	4.08	4.11	4.28
経営学	2	17	4.33	4.93	5.00
会計学	1	23	2.48	2.14	2.43
経済学	1	25	2.73	2.57	2.87
統計学	1	33	4.00	4.13	4.39
英語コミュニケーション	1	20	3.35	4.33	4.37
英語コミュニケーション	2	14	3.31	4.00	4.08

秋学期・コア科目

科目名	クラス	履修者数	設問12	設問13	設問14
企業倫理	2	31	3.76	4.00	3.96
経営学	3	11	4.00	4.27	4.18
会計学	2	27	3.04	3.16	3.32
経済学	2	22	2.81	2.43	2.76
統計学	2	21	3.95	4.00	4.42
英語コミュニケーション	3	14	4.54	4.77	4.85
英語コミュニケーション	4	10	3.50	3.75	3.88

春学期・ベーシック科目

科目名	クラス	履修者数	設問 12	設問 13	設問 14
経営戦略	1	33	3.94	3.94	3.97
人的資源開発	1	25	4.10	4.35	4.50
組織行動		29	4.12	4.60	4.60
マーケティング・マネジメント	1	32	4.14	4.28	4.38
ファイナンス	1	20	4.22	4.39	4.67
企業ファイナンス	1	8	4.29	4.43	4.43
財務諸表分析	1	17	4.07	4.33	4.53
情報システム		7	4.14	4.17	4.00
ベンチャービジネス	1	21	4.20	4.55	4.45
ベンチャービジネス	2	43	3.81	4.23	4.37
行動科学		8	4.13	4.25	4.50
統計分析論		10	3.88	4.25	4.50
産業組織論		5	3.33	3.33	3.33
クリティカル・シンキング		31	4.35	4.42	4.42
会社法		14	4.00	4.42	4.75
上級英語コミュニケーション	1	7	4.60	4.80	4.80

秋学期・ベーシック科目

科目名	クラス	履修者数	設問 12	設問 13	設問 14
経営戦略	2	13	4.08	4.15	4.15
経営戦略	3	10	4.33	4.33	4.44
人的資源開発	2	24	4.13	4.54	4.63
マーケティング・マネジメント	2	15	4.36	4.71	4.64
ファイナンス	2	34	4.57	4.63	4.70
企業ファイナンス	2	19	4.76	4.76	4.82
管理会計		18	3.60	3.60	3.93
財務諸表分析	2	13	3.77	3.85	4.15
テクノロジー・マネジメント	2	20	4.16	4.53	4.79
生産システム		10	4.22	4.11	4.11
ゲーム理論		35	3.85	4.18	4.27

国際経済学		7	3.75	4.25	4.75
上級英語コミュニケーション	2	2	3.50	4.50	5.00

春学期・アドバンスト科目

科目名	クラス	履修者数	設問 12	設問 13	設問 14
企業経営史		9	4.22	4.56	4.67
国際比較経営		15	3.85	3.77	4.15
組織管理事例研究		26	4.65	4.91	4.87
経営戦略事例研究	1	23	4.77	4.91	4.86
マーケティング・コミュニケーション	1	18	4.20	4.40	4.40
マーケティング戦略		14	4.36	4.50	4.79
流通システム		9	4.56	4.56	4.56
ロジスティクス		6	4.25	4.00	4.00
国際マーケティング		14	3.67	4.00	4.08
金融工学		21	4.11	4.61	4.61
証券投資		11	4.33	4.67	4.33
行動ファイナンス		8	4.43	4.57	4.71
金融機関経営		2	4.50	4.50	4.50
Special Topics in Finance (CSMC)		2	3.50	4.00	4.00
標準化経営戦略		8	3.25	4.50	4.25
eビジネス事例研究		12	3.82	4.36	4.36
ベンチャービジネス事例研究		14	4.21	4.50	4.57
企業倫理事例研究		6	4.80	5.00	5.00
ITマネジメント		10	3.78	4.22	4.44
研究開発型ベンチャー創成		35	4.19	4.52	4.65
企業経営戦略特論D		10	4.56	4.44	4.67
企業経営戦略特論G		13	3.83	4.00	4.17

秋学期・アドバンスト科目

科目名	クラス	履修者数	設問 12	設問 13	設問 14
企業家論		16	3.93	4.47	4.33
組織管理 (BS)		48	3.59	3.65	3.85

人材マネジメント		19	4.31	4.56	4.50
NPOマネジメント (BS)		6	4.20	4.60	4.60
事業システム戦略論		23	4.41	4.77	4.73
経営戦略事例研究	2	20	4.50	5.00	5.00
サービス・マーケティング		10	5.00	5.00	5.00
チャネル・マネジメント		8	4.50	4.88	4.88
ブランド・マネジメント		16	4.47	4.53	4.60
マーケティング・コミュニケーション	2	10	4.44	4.44	4.56
消費者行動		11	4.40	4.60	4.60
マーケティング・リサーチ		12	4.55	4.64	4.73
Special Topics in Marketing (CSMC)		6	4.33	4.67	4.67
金融商品		16	4.21	4.43	4.50
リスクマネジメント		7	3.86	4.00	4.14
金融商品取引法		3	3.67	4.00	3.67
イノベーション経営		17	4.00	4.40	4.53
製品開発		10	3.20	3.50	3.80
製品開発事例研究	2	7	4.17	4.50	4.17
アントレプレナーシップ		9	4.11	4.33	4.33
起業家マインド		8	4.00	4.86	4.88
知的財産権法		6	4.17	4.67	4.67
企業経営戦略特論E		14	3.27	3.55	3.64
企業経営戦略特論F		15	4.07	4.40	4.40

B. 教員による担当科目自己評価

教員による授業アンケートは、各担当教員に「教員担当科目自己評価表」が配られ、教員自身が「科目を担当するに当たって最も力を入れたこと」、「実施して良かった点と改善・工夫をした方がよい点」、「当初予定していた目標は達成されたか」の3つの項目に関して記述式で回答したものであり、学生評価のような定量的な評価ではない。

以下では、コア、ベーシック、アドバンスト、課題研究の4つの科目群に分けて、各質問項目について分析・考察する。教科を教えるにあたっての教員の様々な工夫や努力を紹介し、他の教員の参考とするためにもできるだけコメントを多く掲載した。

(1) コア科目群：

「最も力を入れたこと」に関しては、「必ずしも履修意欲が高くない学生に対して、考える機会を与え、科目の積極的な意義を理解してもらう」、「基礎的な概念や理論についての理解」、「最新の教科書の使用」、「新聞記事、雑誌記事などの活用」などが挙げられた。

「実施してよかった点」に関しては、ゲストスピーカーによる講義、「受講生の投票による最優秀グループワーク賞の選定」、「自社についての分析・プレゼン」、「全員に発表してもらう」、「小テストの実施」、「毎回の宿題」などが挙げられた。

「改善・工夫をしたほうが良い点」に関しては、「学生の発言機会の増大」等、授業にいかにして学生の主体的な関与を促すかが課題となっている。また、ある科目では「できる人とできない人の差が大きいので、その溝を埋める工夫が必要」との指摘があった。

上述のような課題はあるものの、「この科目を担当するにあたって、当初予定していた目標や自身の思っていた目標は達成されたか」に関しては、概ね達成されたという意見が多かった。

(2) ベーシック科目群：

概観すると、ベーシック科目群もコア科目群と同様、基本的な理論とその現場への応用、学生の考える力と理解力をつけることを目的にした授業を行うことに力を注いでいる様子がうかがえる。

「最も力を入れたこと」に関しては、「ベーシックな理論や分析フレームワークを実際のケースに応用して分析する力を養う」、「レクチャーとグループディスカッションとケース負荷のバランス」等が挙げられた。授業終了後にネットワーキングを心掛けている講義も見られた。

「実施してよかった点」に関しては、「講義したフレームワークを使って自社の分析をする」、「ケースのグループ発表」、「ケースレポートの毎回の提出」、「新作ケースの使用」、「外部の講師を招いた講演会」等の内容面での充実に加え、「数多くの参考文献を著作権にも配慮しつつ、ダウンロード可能な状態にして配布する」、「役に立つウェブサイトの紹介」、「講義の時間配分の改善」等、各教員が工夫を凝らしていることがわかる。

「改善・工夫をしたほうが良い点」に関しては「基礎学力不足の受講生に対する、懇切丁寧な指導」、「最新の話題を取り入れる」、「レクチャーが続くと受講生の集中力がとぎれがちになるので、ケースや演習方式を導入」した方が良いという意見があった。「授業開始時に小テストを実施する等して、事前に学生の力量を把握するように努めたい」との意見があった。また、「他教科との連携」といった事項を挙げる教員がいた。

「この科目を担当するにあたって、当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、自身の思っていた目標は達成されたか」に関しては、概ね達成されたという意見が多かった

(3) アドバンスト科目群：

アドバンスト科目に関しては、専門内容の深い理解とケースを使用した実践での応用を中心にした授業が多くみられた。

「最も力を入れたこと」に関しては、米国のビジネススクールと同程度の内容をカバーすることを目指した科目があった。教科書・参考書から学ぶ知識と具体的な事象とを結びつけることに力を注いだ講義もあった。

「実施してよかった点」に関しては、レポートを課し、それに対して教員およびゲストからコメントをフィードバックするようにした講義があった。グループ研究やケースレポートを実施した講義もあった。実データを用いた解析や発表会を行う講義もあった。演習を多用した講義もあった。

「改善・工夫をしたほうが良い点」に関しては、グループディスカッションを増やすことを挙げる者がいた。また、インターネットやクロスメディアのケースをもっと増やす必要があると感じる教員もいた。エクセルを用いて演習の密度を向上させることを検討する教員もいた。

「この科目を担当するにあたって、当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、自身の思っていた目標は達成されたか」に関しては、概ね達成されたという意見が多かったが、「もっと積極的に討論を刺激していく工夫が必要であった」と感じる教員もいた。

(4) 課題研究科目群：

課題研究の科目群に関しては、学生自ら発想し、テーマの設定、深くテーマの追及を行って研究を纏めていくプロセスを導いていく授業を目指したものが多かった。

「最も力を入れたこと」に関しては、「データなど根拠を示して説得的な議論を展開」し、「課題研究のプロセスで得た体験が卒業後も何らかの役に立つよう指導することを心掛けた」ことを目指して講義が行われていた。

「実施してよかった点」に関しては、課題研究基礎において「統計データを用意して、具体的に統計手法の適用例を紹介した」講義があった。講義の運営面では、「3月からクラスを開始して、オリエンテーションやテーマ設定を4月はじめまでに終えることができた」講義や「OB・OGとの合同授業、ゼミ合宿や交流会を実施した」講義もあった。達成度についても、論文投稿を目指した講義もあった。

「改善・工夫をしたほうが良い点」に関しては、「文献の探索について事前に徹底することが必要」といった研究手法の指導法に関するものや、個々の学生の発表時間の平準化や研究の進捗管理など時間マネジメント面での課題も指摘された。「取り組み姿勢、分析能力等のばらつきが学生間にあり、課題研究を週複数回開催すること等の検討が必要」との指摘があった。

「この科目を担当するにあたって・・・自身の思っていた目標は達成されたか」という問いに関しては、概ね達成されたという意見が多かったが、一部に「課題研究が始まってすぐにフィールドワークに取り組ませたいが、問題意識の低い履修生の場合、論文提出の1ヶ月前になっても取り組めない人がいる。課題研究基礎の段階で、しっかりした指導を行い、連続性を重視するような対策を講じたい」という意見や、「論文のできあがりという点で、目標を十分に達成できたとは思っていない」という意見もあった。

経営戦略専攻・国際経営コース

A. 学生による授業評価アンケート

以下に、国際経営コースにおける2012年度の授業評価アンケートの結果を春・秋学期別、および通年で過年度の結果に対して分析する。ただし、質問項目14「授業内容の就職後の実用性」は国際経営コースで独自に追加した質問項目である。

表1：2012年度授業評価結果（2010年、2011年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入）

全科目群															
学期	年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
春学期	2010	4.47	4.48	4.52	4.13	4.31	4.19	4.06	4.20	4.36	3.91	3.89	4.07	4.20	4.38
	2011	4.61	4.72	4.78	4.39	4.60	4.53	4.33	4.44	4.58	4.33	4.27	4.43	4.57	4.56
	2012	4.45	4.40	4.64	4.24	4.49	4.41	4.26	4.12	4.37	4.16	4.13	4.34	4.33	4.40
秋学期	2010	4.52	4.58	4.61	4.23	4.39	4.38	4.34	4.37	4.46	4.17	4.21	4.32	4.45	4.48
	2011	4.59	4.66	4.64	4.31	4.59	4.50	4.33	4.42	4.53	4.35	4.33	4.42	4.51	4.50
	2012	4.42	4.54	4.60	4.13	4.46	4.33	4.32	4.25	4.36	4.22	4.16	4.20	4.33	4.35
通年	2010	4.49	4.52	4.56	4.18	4.35	4.27	4.19	4.28	4.40	4.03	4.04	4.18	4.31	4.42
	2011	4.60	4.70	4.73	4.36	4.60	4.52	4.33	4.43	4.56	4.34	4.29	4.43	4.55	4.54
	2012	4.43	4.47	4.63	4.19	4.47	4.37	4.29	4.18	4.36	4.19	4.15	4.27	4.33	4.37

まず通年での学生による授業全体評価の水準自体は概ね良好である。多くの質問項目の平均が4点台であり、「Strongly Agree」、「Agree」の中間の値となっている。つまり、質問項目のすべてが4.0を超えているという「高い評価」結果を得ている。

しかし、過去2年との比較をしてみると2011年度よりも全体的に評価が下がっており、2010年度の評価に逆戻りしている傾向が見受けられる。背景には、2010年度は例年になく多くの学生が入学したが、この層が2年生になり最終学年を迎えたのが2011年である。一般的に2年生の評価は1年生の評価より高く推移する傾向が過去にも見られその傾向が2011年に現れたと考えられる。この2011年からの低下傾向が一時的なものであるか、学生の数の減少や、国籍構成の変化によるかは不明であるが、今後の評価の傾向を注視すべきである。

個々の質問項目の評価点を詳細に分析すると、質問項目3「The instructor's

knowledge level was high enough to teach the course.」においては 4.63、質問項目 2 「The instructor was well prepared for the classes.」、質問項目 5 「The instructor encouraged students comment and discussion.」においては 4.47 という高い評価点が見受けられる。これらの教員に対する学生の高い評価は、教員全体が継続的な教育の向上を目指した結果の反映であると考えられる。しかし、全体的に学生数が減少している事実を鑑みると、各クラスの学生数が減少し、学生と教員とのさらに密なる双方向のコミュニケーションが実現した結果が、皮肉にも高い評価につながったとも考えられる。

次に高い評価が見られるのは、例えば質問項目 1 「The course met the objectives and topics described in the syllabus.」が 4.43、質問 6 「Instructor's interest in whether students learned was high.」と質問 14 「Course content were highly relevant and useful for your future career.」が 4.37 である。

一方、比較的低い評価であったのは、質問 11 が 4.15 「You made additional efforts for the course such as searching related materials for course topics.」、質問 8 「The course was well organized in terms of contents and time allocation.」が 4.18 であった。上記質問 11 に関してはコースに対する学生の姿勢に対する評価であり、学生の勉学意欲が低下していることを指摘している。また、その点から質問 8 を考えると、学生の勉学意欲の低下が授業の内容が難しく感じる、または勉強時間が足りなかったという評価の低下につながったとも捉えることができる。

表 2：2012 年度授業評価コア科目群結果（2010 年、2011 年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入）

コア科目群		設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
春学期	2010	4.33	4.20	4.38	3.95	3.99	3.88	3.96	4.12	4.29	3.77	3.57	3.82	3.95	4.13
	2011	4.53	4.73	4.84	4.18	4.69	4.53	4.18	4.40	4.51	4.22	4.09	4.20	4.53	4.59
	2012	4.25	4.21	4.51	4.09	4.33	4.25	4.42	4.05	4.23	4.07	3.99	4.12	4.20	4.25
秋学期	2010	4.46	4.49	4.62	4.13	4.42	4.51	4.21	4.23	4.41	4.21	4.26	4.23	4.36	4.31
	2011	4.40	4.53	4.60	4.10	4.57	4.40	4.21	4.30	4.30	4.10	3.93	4.14	4.23	4.27
	2012	4.62	4.50	4.59	4.31	4.50	4.42	4.40	4.44	4.31	4.28	4.31	4.22	4.44	4.39
通年	2010	4.37	4.28	4.45	4.00	4.11	4.06	4.03	4.15	4.33	3.89	3.76	3.93	4.06	4.18
	2011	4.48	4.65	4.75	4.15	4.64	4.48	4.19	4.36	4.43	4.17	4.03	4.18	4.41	4.46
	2012	4.38	4.32	4.52	4.17	4.40	4.31	4.41	4.21	4.26	4.15	4.08	4.18	4.29	4.31

表 3：2012 年度授業評価ベーシック科目群結果（2010 年、2011 年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入）

ベーシック科目群

学期	年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
春学期	2010	4.50	4.53	4.55	4.21	4.38	4.25	3.95	4.25	4.32	4.05	3.93	4.08	4.18	4.41
	2011	4.61	4.61	4.77	4.30	4.48	4.43	4.07	4.20	4.45	4.33	4.32	4.52	4.57	4.55
	2012	4.57	4.36	4.59	4.44	4.53	4.42	3.93	3.91	4.34	4.32	4.50	4.61	4.32	4.56
秋学期	2010	4.60	4.66	4.62	4.32	4.45	4.42	4.31	4.46	4.51	4.26	4.26	4.35	4.49	4.57
	2011	4.68	4.73	4.71	4.45	4.71	4.60	4.29	4.42	4.62	4.56	4.51	4.69	4.58	4.56
	2012	4.46	4.58	4.64	4.13	4.55	4.36	4.29	4.27	4.41	4.35	4.29	4.30	4.36	4.43
通年	2010	4.56	4.61	4.59	4.28	4.42	4.36	4.17	4.38	4.43	4.17	4.13	4.25	4.37	4.50
	2011	4.65	4.67	4.74	4.38	4.60	4.52	4.18	4.31	4.54	4.44	4.42	4.61	4.57	4.55
	2012	4.50	4.50	4.62	4.24	4.55	4.38	4.17	4.15	4.36	4.34	4.36	4.41	4.35	4.47

表 4：2012 年度授業評価アドバンス科目群結果（2010 年、2011 年度との比較、各回答者の平均値を小数点第二位で四捨五入）

アドバンス科目群

学期	年度	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
春学期	2010	4.57	4.67	4.61	4.25	4.54	4.42	4.19	4.24	4.43	3.96	4.13	4.26	4.40	4.56
	2011	4.63	4.74	4.76	4.48	4.61	4.55	4.46	4.52	4.64	4.37	4.31	4.48	4.59	4.55
	2012	4.53	4.56	4.78	4.25	4.58	4.53	4.33	4.31	4.50	4.14	4.06	4.33	4.43	4.41
秋学期	2010	4.47	4.54	4.61	4.19	4.32	4.29	4.40	4.33	4.44	4.08	4.16	4.32	4.44	4.47
	2011	4.61	4.68	4.60	4.31	4.52	4.48	4.42	4.47	4.59	4.32	4.40	4.36	4.59	4.59
	2012	4.18	4.50	4.60	3.95	4.23	4.18	4.30	4.03	4.29	3.88	3.75	3.95	4.15	4.13
通年	2010	4.52	4.61	4.61	4.22	4.44	4.36	4.29	4.28	4.43	4.01	4.14	4.29	4.42	4.52
	2011	4.63	4.72	4.71	4.44	4.58	4.53	4.45	4.51	4.63	4.36	4.34	4.45	4.59	4.56
	2012	4.40	4.54	4.72	4.14	4.45	4.41	4.32	4.21	4.43	4.04	3.95	4.20	4.33	4.31

また、表 2 から表 4 はコア、ベーシック、アドバンス科目群による同評価結果である。全体評価との比較で考えると、傾向としては同じ結果が見受けられる。つまり、過去 2 年との比較をしてみると 2011 年度よりも全体的に評価が下がっており、2010 年度の評価に逆戻りしている傾向である。

注目すべきは、過去にも同様の傾向が見られたが、コアよりはベーシックが、ベーシックよりアドバンスの方が、評価が高く推移している点である。この傾向は、学生のコース選択と満足度の相関が高いことに裏づけられよう。

個々の項目で見ると、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンス科目群すべてで質問 3 「The instructor's knowledge level was high enough to teach the course.」が最も高く夫々 4.52、4.62、4.72 と 4.5 を上回る高い評価であった。この結果からも、教員の知識レベルを学生が高く評価している。専門性の高いアドバンスコースにおいてはそれが顕著に現れている。

一方、一番低い評価項目は、コア科目群で質問 11「You made additional efforts for the course such as searching related materials for course topics.」の 4.08、ベーシック科目群では質問 8 「The course was well organized in terms of contents and time allocation.」で 4.15、アドバンス科目群では質問 11「You made additional efforts for the course such as searching related materials for course topics.」で 3.95 となった。この

結果を分析してみると、学生の勉学に対する意欲の低下が見られると同時に、2年目に履修するアドバンスの科目群は、就職活動時期や Individual Research の時期と重なるので、勉学に十分な時間をとることに学生が苦勞しているのではないかと考えられる。

B. 教員による授業評価アンケート

授業評価の結果が秀でた科目では、昨年同様、視聴覚教材やゲストスピーカーなど多様な素材を授業で活用したコース、学生が興味を持てる事項や現実の社会情勢を授業に織り交ぜたコースなどが、学生のニーズを的確に捉え満足度向上に貢献しているとの結果が見受けられた。

良かったと評価する項目は、学生に授業時にプレゼンテーションを課すことで授業に自ら関わる姿勢を動機づけするような工夫をすることで学生の学習意欲が上がったと評価している教員が多かった。また、理論や知識だけでなくそれをどのように応用したかの事例を取り扱ったことが学生の理解の向上につながったなどの意見が見られた。

一方で、今後の改善点としては、学生に授業にたいして十分な準備をするための工夫ができなかったと回答している事、グループ議論を活発化させることが大変である事などが注目される。学生の全体数が減少する中、教員と学生とのコミュニケーションは活発化した一方で、学生間の議論の盛り上がりの欠如と、互いの勉学意欲の啓蒙・研鑽に欠けているとの印象を持った教員が多くいた。

昨年の評価でも指摘されているが、受講学生の予備知識の統一に関しては、IMC 内での制度的な取り組みが必要かもしれない。この取り組みにより、学生の統一的な基礎学力の向上が期待できる。特に、国際経営コースはその様々な国籍と文化的、キャリア、バックグラウンドの違いから、多様な考えと違った知識レベルの学生が入学する。それを統一的な尺度で教えることの難しさを感じる教員が多くいる。しかしながら、多く教員が非常勤や任期制であるため統一的な取り組みを進めるハードルは高い。さらに専任教員は、今まで以上の授業や公務の負担が増えることにつながりかねない。その際には、教育の質を落とさないような工夫が求められる。

また、国際経営コースは、コース選択の自由度が大きく柔軟なカリキュラム制度であるという強みの一方でクラス内での学生知識レベルのばらつきが大きいといった弱点がある。この弱点を克服するため、アドバンスコース選択の前の prerequisite 化を検討する必要があるかもしれない。

来年 2014 年度に全体コースの再編成がなされ、科目間の単位、時間の統一が行われ、ベーシックとアドバンスの科目履修の重複が解消される。そのカリキュラム改変後の評価結果を分析したうえで、制度を見直すかどうか判断をするべきであると思われる。

5. 会計専門職専攻

A. 学生による授業評価

(1) 概要

学生による授業評価アンケートは、設問 1 から設問 9 が「教員の授業内容と方法」について、設問 10 および設問 11 が「学生自身の取り組み」について、設問 12 から設問 14 が「授業の満足度」について問うものである。

設問ごとの平均値および設問 13 とその他の設問との相関係数（四捨五入）は、次のとおりである。

<設問毎の平均値と設問 13 とその他の設問との相関係数>

番号	設問文	2012 年度春学期		2012 年度秋学期	
		平均値	問 13 との相関係数	平均値	問 13 との相関係数
1	授業内容は、シラバスで示された主題や目的に十分沿っていましたか。	4.8	0.54	4.8	0.47
2	教員は十分に準備をして授業に臨んでいましたか。	4.8	0.47	4.8	0.60
3	教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門知識を持っていましたか。	4.9	0.49	4.9	0.50
4	授業で指定された教科書や配布された資料は、学習の助けとなりましたか。	4.7	0.56	4.7	0.57
5	教員は学生が発言したり議論することに十分な配慮を払いましたか。	4.5	0.36	4.6	0.41
6	教員は、個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか。	4.4	0.56	4.5	0.54
7	この授業で与えられる課題の量は適正なものでしたか。	4.5	0.43	4.5	0.44
8	授業の内容と時間配分は適正なものでしたか。	4.6	0.61	4.6	0.55
9	教員は学生の質問に丁寧に答えていましたか。	4.7	0.48	4.7	0.48
10	この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか。	4.1	0.42	4.2	0.30
11	この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか。	4.0	0.38	4.1	0.31
12	この授業を受けることで分析能力や批判力がついたと思いますか。	4.3	0.61	4.4	0.57
13	この授業は全般的に満足いくものでしたか。	4.6	/	4.7	/
14	この授業は、今後の学習にとって有意義なものでしたか。	4.7	0.87	4.7	0.81

(2) 全体評価～専攻平均値～

専攻平均値は、すべての設問の評点を延べ有効回答数で平均したもの（総平均値、四捨五入）である。会計専門職専攻が開設された 2005 年度から 2012 年度にかけての専攻平均値の推移は、次のとおりである。

<専攻平均値の推移>

	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
春学期	3.9	4.2	4.3	4.4	4.3	4.3
秋学期	4.2	4.3	4.5	4.5	4.5	4.4
	2011年度	2012年度				
春学期	4.3	4.6				
秋学期	4.4	4.6				

専攻平均値は、2007年度秋学期まで上昇し続けた後、2008年度秋学期まで4.4ないし4.5という値を記録し、その後も、2011年度まで4.3から4.5で安定的な推移をしてきた。そして、2012年度においては4.6と、春学期と秋学期ともに、開設以来最も高い値となった。総合的な評価としては高位での安定が図られているものといえよう。

ただし、2011年度までは、秋学期に比して春学期の方の評点が低いという傾向がみられる。この点については、秋学期よりも春学期の方の入学者が多く、新入生が専門職大学院のカリキュラムなどに不慣れな点が現れている可能性が考えられることから、今後とも、注視する必要がある。また、2012年度はこれまでで最も高い値となっているが、以下で分析する科目群ごとの評価などを踏まえた取り組みを引き続き実践していくとともに、今後の動向を注視する必要がある。

(3) 個別評価

① 教員の授業内容と方法

専攻全体の平均値は、設問7を除いて、前年度に比して上昇している。特に、設問1から設問3では、春学期、秋学期ともに4.8以上となっており、設問4と設問9では4.7となっている。したがって、担当科目についての資質を有する教員が、シラバスに沿って、資料の作成等を含む十分な準備をして授業に臨んでいることについて、学生から高い評価を得ているといえる結果となっている。

設問5から設問8については、2011年度において0.2ポイント程度上昇し、2012年度においても、全般的に上昇している。したがって、授業の方法に関する教員の取り組みに対する評価も高まってきているといえる。

以上より、専攻平均値の推移にもみられるように、慎重な配慮も必要ではあるものの、全体としては、授業の事前準備とこれを踏まえた授業の実践などに対して、学生から高い評価を得ているといえる結果となっている。ただし、設問5から設問8に係る評価について

は、2010年度から2012年度にかけて上昇しているが、他の設問に比して総じて低い値となっている点に留意すべきである。

<設問1から設問10の平均値>

	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10
(専攻全体)										
2009年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.5	4.4	4.5	4.5	4.6	4.1
2010年度春学期	4.6	4.6	4.8	4.5	4.2	4.1	4.3	4.3	4.5	3.9
2010年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.2	4.2	4.2	4.3	4.4	4.0
2011年度春学期	4.7	4.7	4.8	4.5	4.3	4.3	4.4	4.4	4.6	4.0
2011年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.4	4.4	4.5	4.5	4.6	4.1
2012年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.5	4.4	4.5	4.6	4.7	4.1
2012年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.6	4.5	4.5	4.6	4.7	4.2
(コア科目)										
2009年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.5	4.3	4.4	4.4	4.6	4.1
2010年度春学期	4.5	4.5	4.7	4.4	3.9	3.9	4.1	4.1	4.3	3.8
2010年度秋学期	4.6	4.7	4.8	4.5	3.9	4.1	4.1	4.2	4.3	3.9
2011年度春学期	4.7	4.7	4.8	4.4	4.2	4.2	4.3	4.4	4.5	4.0
2011年度秋学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.5	4.5	4.5	4.6	4.7	4.2
2012年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.6	4.4	4.3	4.4	4.5	4.6	4.1
2012年度秋学期	4.7	4.8	4.9	4.6	4.4	4.3	4.5	4.6	4.6	4.1
(ベーシック科目)										
2009年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.5	4.4	4.5	4.6	4.6	4.1
2010年度春学期	4.7	4.7	4.8	4.7	4.5	4.3	4.4	4.5	4.6	4.0
2010年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.3	4.2	4.1	4.3	4.4	3.9
2011年度春学期	4.6	4.7	4.8	4.6	4.5	4.4	4.3	4.5	4.7	4.0
2011年度秋学期	4.7	4.8	4.9	4.7	4.5	4.4	4.5	4.6	4.7	4.2
2012年度春学期	4.8	4.8	4.9	4.7	4.6	4.4	4.5	4.6	4.7	4.2
2012年度秋学期	4.9	4.8	4.9	4.8	4.7	4.6	4.6	4.7	4.8	4.3
(アドバンスト科目)										
2009年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.5	4.4	4.5	4.5	4.7	4.0
2010年度春学期	4.7	4.7	4.9	4.7	4.6	4.5	4.5	4.6	4.7	4.2
2010年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.4	4.3	4.3	4.4	4.6	4.0
2011年度春学期	4.7	4.7	4.9	4.7	4.7	4.6	4.6	4.6	4.8	4.1
2011年度秋学期	4.7	4.8	4.8	4.8	4.7	4.7	4.5	4.5	4.7	4.2
2012年度春学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.8	4.7	4.6	4.7	4.9	4.3
2012年度秋学期	4.8	4.9	4.9	4.8	4.7	4.6	4.6	4.6	4.8	4.3

そこで、科目群ごとの評価に目を向けると、まず、コア科目からベーシック科目、アドバンスト科目へと評価が高くなる傾向が今回も観察される。そして、設問5から設問8については、専攻全体の平均値は2010年度から2012年度にかけて上昇しているが、コア科目のそれは相対的に総じて低い評価であり、さらに、2011年度秋学期に比して全般的に低くなっている。したがって、前述の専攻全体での設問5から設問8に係る評価が他の設問

に比して相対的に低いのは、コア科目の評価が起因していることが分かる。

コア科目は導入教育に該当する科目が多く、そこで、講義形式で一定量の負荷をもって実施されることが多い。また、企業会計コースの授業内容は、近年の企業会計基準の新設・改訂によって増加している傾向にあらう。このような導入教育段階にあるコア科目の受講時において、学生が授業内容および課題の取り組みにとりわけ負荷を感じていることが考えられる。さらに、入学者の多様性、入学時点での会計知識の水準が影響している可能性も想起される。

<設問 11 から設問 14 の平均値>

	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14
(専攻全体)				
2009 年度秋学期	4.0	4.3	4.5	4.6
2010 年度春学期	3.8	4.1	4.4	4.5
2010 年度秋学期	3.9	4.2	4.5	4.6
2011 年度春学期	3.9	4.2	4.5	4.6
2011 年度秋学期	4.0	4.3	4.6	4.6
2012 年度春学期	4.0	4.3	4.6	4.7
2012 年度秋学期	4.1	4.4	4.7	4.7
(コア科目)				
2009 年度秋学期	3.9	4.2	4.5	4.6
2010 年度春学期	3.7	3.9	4.3	4.5
2010 年度秋学期	3.8	4.0	4.4	4.5
2011 年度春学期	3.8	4.1	4.4	4.5
2011 年度秋学期	4.1	4.4	4.6	4.7
2012 年度春学期	3.8	4.2	4.5	4.6
2012 年度秋学期	3.9	4.2	4.5	4.6
(ベーシック科目)				
2009 年度秋学期	4.1	4.3	4.6	4.7
2010 年度春学期	3.9	4.2	4.6	4.7
2010 年度秋学期	3.8	4.1	4.5	4.6
2011 年度春学期	4.0	4.3	4.6	4.7
2011 年度秋学期	4.1	4.4	4.6	4.7
2012 年度春学期	4.1	4.3	4.6	4.7
2012 年度秋学期	4.2	4.6	4.8	4.8
(アドバンスト科目)				
2009 年度秋学期	4.0	4.3	4.5	4.6
2010 年度春学期	4.1	4.4	4.6	4.6
2010 年度秋学期	4.0	4.4	4.6	4.7
2011 年度春学期	4.3	4.5	4.8	4.8
2011 年度秋学期	4.2	4.5	4.6	4.7
2012 年度春学期	4.3	4.6	4.8	4.8
2012 年度秋学期	4.2	4.6	4.8	4.8

以上、専攻全体に係る設問 1 から設問 4 の評価より、学生が教員の授業内容の意義を理解していることが示唆されることから、会計専門職専攻開設以来の教育面での一定の成果を維持していることが説明できるであろう。ただし、設問 5 から設問 8 に係る評価などからは、特にコア科目について、学生の理解度を高める工夫が問われており、授業内容の質の確保と時間配分、課題の質と量については今後も継続的に注意していくとともに、効果的かつ効率的な方法で授業が実践されることを期待したい。

② 学生自身の取り組み

「学生自身の取り組み」を問う設問 10 と設問 11 の評価は、前年同期ベースで、いずれもこれまでで最も高い値となっており、学生自身の予習・復習の取り組み、自分から文献を探すなどの努力について改善したことがうかがえる。ただし、他の設問に比して、いぜん低い値である。これは、学生自身の謙虚な姿勢が表れている可能性があるものの、予習・復習、課題を含めた授業全体の実践に改善の余地があるものともいえ、今後も注視すべき値である。なお、春学期と秋学期を比較すると、春学期での評価が低い傾向にある。春学期入者と秋学期入学者との間にキャリアやバックグラウンドの違いがあることが考えられる。

<学生自身の取り組みに係る評価の推移>

	2005 年度	2005 年度	2006 年度	2006 年度	2007 年度	2007 年度	2008 年度	2008 年度
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
設問 10	3.6	3.7	3.7	3.8	3.9	4.0	3.9	4.1
設問 11	3.4	3.5	3.6	3.7	3.7	3.9	3.8	3.9
	2009 年度	2009 年度	2010 年度	2010 年度	2011 年度	2011 年度	2012 年度	2012 年度
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
設問 10	3.9	4.1	3.9	4.0	4.0	4.1	4.1	4.2
設問 11	3.8	4.0	3.8	3.9	3.9	4.0	4.0	4.1

上記のとおり、設問 10 と設問 11 の評価は、いぜんとして、最も低いものである。この点は、本学だけでなく、専門職大学院の教育一般にとっても課題となっているテーマであることから、今後とも注意しなければならない。教員による継続的な取り組みとして、設問 10 に関しては、後述の教員の担当科目自己評価表と合わせて検証し、改善策を検討して、これを実践することが考えられる。特に、コア科目に関しては、設問 5 から設問 7 の評価

も相対的に低い傾向にあることから、授業で与える課題の量を予習・復習との関係も踏まえて設定するなど、予習・復習、課題などを含めた授業全体の構成を検討することも必要であろう。

設問 11 に関しては、設問 4 とも関係するが、教科書・配布資料に加えて、教員が授業中に参考文献などを紹介すること、レポートや課題を課す際には文献にあたるよう指導をすることを、これまで以上に行うべきであると考えられる。

③ 授業の満足度

設問 12 から設問 14 に対する評価は、授業に対する評価の結論的指標となるものであり、2011 年度に引き続き、高い値となっており、2012 年度はこれまでで最も高い値となっている。

分析能力や批判力が養成されたかを問う設問 12 については、コア科目での評価が春学期、秋学期ともに 4.2 と低い値になっている。上述のとおり、コア科目は分析能力や批判力の基礎を涵養する導入教育であることから、やむを得ない部分もあろうかと思われるが、授業方法に工夫を図れないか、担当教員に検討を期待したいところである。教員全体としては、後述の教員の担当科目自己評価表の検討を踏まえて、FD 活動において取り上げるべき課題としていくことも考えられる。

さて、学生の満足度を問う設問 13 と比較的高い相関を見せたのは、春学期では、高い順に、設問 8、設問 12 (いずれも相関係数 0.61)、続いて、設問 4・設問 6 (いずれも同 0.56) であった。秋学期では、高い順に、設問 2 (同 0.60)、設問 4・設問 12 (同 0.57)、設問 8 (同 0.55)、設問 6 (同 0.54) であった。これらからは、適切な教科書や配布資料を用いて、個々の学生の理解水準をケアして、授業の内容と時間配分を適正な水準に置き、これらをつうじて、分析能力や批判力の涵養を図っていくことが、学生の満足度につながることを示しているといえよう。

以上より、授業の事前準備のなかで適切な教科書、配布資料を制作ないし選択をし、授業内容の水準と量(予習、復習、課題などを含む。)のバランスを図り、より分析能力・批判力が涵養される授業を実践していくことの重要性を改めて指摘できよう。

B. 担当教員による担当科目自己評価表

(1) 概要

教員の担当科目自己評価表については、①この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか、②この科目において、実施してよかった点と改善・工夫をした方がよい点は何ですか、③この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も

力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか、という3つの設問について担当教員が回答した。

回答の内容は担当教員によって様々ではあるが、多人数相手の講義形式が中心のコア・ベーシック科目と、少人数相手の講義や演習形式が中心のアドバンスト科目とで、回答におおまかな傾向が見受けられた。コア・ベーシック科目では、学生の授業の理解度を確認するために、小テストを複数回実施する教員が多かった。また、市販のテキストよりは自作のレジユメをもとにして授業を行う教員が多かった。他には、講義形式ではあるが学生に発言を求める教員が多く、これは講義形式であっても双方向的な授業を志向している教員が多いと考えられる。課題としては、学生によって授業への理解度に大きな差があることを回答した教員が多かった。

アドバンスト科目では、実務経験のない学生の興味関心を惹くために参照する事例を大阪市といった身近な例にしたり、積極的に授業に参加させるためにグループワークやグループディスカッションを取り入れたりするなど工夫している教員が多かった。

(2) 各質問項目の回答傾向 (春学期)

設問①：この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか

コア科目では、「基礎的・体系的な知識や考え方を身につけさせる」(18件)といった、当該分野の基礎的・全体的な概要や考え方を理解させる回答が多かった。また、問題演習が必要な科目に関しては、「基本的な計算や論述ができる能力を身につけさせる」(5件)といった、問題処理能力を向上させる回答も多くみられた。簿記検定などの資格試験に関係する科目では、「資格試験に対応できるだけの知識を身につけさせる」(4件)という回答も目立った。「いくつかのテーマについて具体的な事例を考えながら解説を行う」(5件)という回答も多かった。

その他、「できる限り分かりやすく解説する」(2件)、「興味・関心を惹くようにする」(2件)といった回答も複数見られた。

ベーシック科目では、「特定のテーマについて詳細な解説を行う」(8件)、「いくつかのテーマについて具体的な事例を考えながら解説を行う」(7件)、「学生の理解度を一定レベルまで引き上げる」(4件)、「条文解釈や法的な考え方を身につけさせる」(4件)といったような、より具体的・専門的理解、詳細な知識などを身につけさせようとする回答が多かった。

他にも、コア科目同様、「基礎的・体系的な知識や考え方を身につけさせる」(8件)という回答も多かった。これは、ベーシック科目で初めて学ぶ科目(より入門的な科目がコア科目に設定されておらず、学生はベーシック科目で初めてその分野について学習する科目)

で特によく見られた。その他、「グループワーク、発表やディスカッションなどを取り入れる・双方向的な授業を行う」(4件)といった回答もあった。

アドバンスト科目では、「実務を紹介する・実例を基に説明する」(15件)など、実際の例を題材にして説明を行う回答が非常に多かった。特に、社会で働いた経験のない学生に対して企業実務や自治体業務を教える科目では、「実例を基本的なところから丁寧に解説する」(3件)との回答も多かった。また、少人数の授業が多いためか、「学生に積極的に質問、発言や討論をさせる」(13件)、「学生に発表させる」(3件)など、双方向的な授業を志向している回答も非常に多かった。

他には、アドバンスト科目で初めて学ぶ科目では、コア科目やベーシック科目同様、「体系的な知識を理解させる」(4件)という回答も複数見られた。

設問②ー(1)：この科目において、実施してよかった点は何ですか

コア科目では、圧倒的大多数の教員が「小テストを実施した点」(13件)を挙げている。小テストの具体的な実施方法は、回数では(回答に記載された範囲では)2回～毎週、内容ではその日の授業内容を確認する問題から、先週の内容を確認する問題など、様々であった。このように、具体的な実施方法に違いこそあれ、この小テストの実施によって、「学生の理解度をチェックしながら授業を進めることができた」、「学生に自学自習の習慣を身につけさせることができた」点などを良かった点として挙げている。小テストの他にも、「宿題やレポート課題を実施した点」(8件)との回答も多かった。

他には、「分かりやすいようにレジュメを配付した点」(3件)、「パワーポイントで視覚的に分かりやすくした点」(3件)など、分かりやすく理解させる試みを良かった点として挙げた回答が多かった。「先週の授業の内容を復習した点」(2件)など、同じ内容を繰り返し説明して理解の定着を図った回答も複数見られた。また、積極的に学生に発言させるなどして、「双方向的な授業を行った点」(6件)を挙げた回答も多かった。

ベーシック科目では、コア科目と比べて、「小テストを実施した点」(8件)という回答が減少し(それでもかなりの回答数ではあった)、対照的に「宿題やレポート課題を実施した点」(10件)という回答は若干増加し、結果として「小テストの実施」と「レポートの実施」はほぼ同程度の回答数であった。これは、ベーシック科目では実務や実例を解説するトピックが増えるため、それらの理解度を測る・理解を深めるためには小テストよりもレポートの方が適しているからと考えられる。

授業内容に関して言えば、「実務を紹介した点・実例を基に説明した点」(11件)を挙げた回答が多く、理論と実務との関連性を意識して授業を行っていることがうかがえる。

他には、特に実務や実例を使って解説する授業科目ではグループワーク、発表やディス

カッションなどを取り入れ「双方向的な授業を行った点」(7件)を挙げる回答も多かった。

アドバンスト科目では、「実務を紹介した点・実例を基に説明した点」(14件)が最多であった。次に、グループワーク、発表やディスカッションなどを取り入れ「双方向的な授業を行った点」(12件)、「学生に調査した事例などを発表させた点」(11件)との回答が多かった。これは、アドバンスト科目は理論だけでなく実務などの応用的な分野が多い事と、受講者があまり多くなくゼミ形式の授業が可能なことがその要因と考えられる。

アドバンス科目の中でも、計算問題が重視される科目等、複雑な問題演習が必要な科目では「小テストを実施した点」(6件)、「問題演習を行った点」(7件)などを挙げた回答も見られた。

設問②ー(2)：この科目において、改善・工夫をした方がよい点は何ですか

コア科目では、「特になし」(4件)との回答もあったが、授業の進め方に関しては「時間配分を適切に行う」(4件)、「実例をもっと紹介する」(4件)、「配布資料を改善する」(2件)などの回答があった。また、学生への働きかけに関しては「学生の努力を引き出す」(4件)、「討論を増やす・導入する」(3件)、「小テストの回数を増やす」(3件)、「記述能力を高める」(1件)などの回答があった。

また、「受講者のレベルの差が大きい」(3件)と、教員側からの問題提起も見られた。

ベーシック科目では、「特になし」(4件)、「時間配分を適切に行う」(5件)、「個別テーマについてより詳細な解説を行う」(2件)などの回答もあったが、最も多かったのが学生への働きかけに関する回答で「学生の自主的な学習を促す」(5件)、「学生の積極的な発言を促す」(6件)など、将来的には学生間でのディスカッションなど双方向的な授業を実施したい回答も多かった。しかし、「学生の理解の程度に大きな差がある」(5件)、「復習が足りない・意欲に欠ける学生がいる」(2件)など、ディスカッションを行うには難しい状況も存在している。他には、「当該科目の位置づけに対する提案」(1件)、「問題演習の充実化を図る」(1件)、「各回の授業の内容量の均一化を図る」(1件)などがあった。

アドバンスト科目では、「特になし」(3件)、「時間配分を適切に行う」(6件)、「個別テーマについてより詳細な解説を行う」(4件)、「予習や復習の指示を明確に行う」(5件)、「実務経験のない学生にも分かりやすいようにテキストやレジュメを改善する」(6件)などの回答があった。特に、実務経験のない学生に実務上の問題を教える際には各教員とも苦労して工夫しているようである。また、「質問やディスカッションなど双方向的な学習の時間を増やす」(5件)など、将来的には双方向性を高めたいとする回答も目立った。ただし、ここでも「学生の理解・能力の程度に大きな差がある」(4件)など、学生間の能力の差が大きい事が問題となっているようである。他には、「(科目の特性上あまり体系化できない

分野ではあるが) 授業の体系化を図る」(1件)、「学生の就職活動への対応」(1件)、「もう少しゆっくりしゃべる」(1件)などの回答があった。

設問③：この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか

コア科目では、「達成できた・ほぼ達成できた」(29件)、「よく分からない」(1件)との結果であった。ただし、同時に学生の理解度に大きな差があることを将来的な課題として指摘した回答も3件ほどあった。

ベーシック科目では、「達成できた・ほぼ達成できた」(26件)、「改善の余地あり」(1件)であった。ただし、コア科目と同様、学生の理解度に大きな差があることを将来的な課題として指摘した回答も3件ほどあった。

アドバンスト科目では、「達成できた・ほぼ達成できた」(28件)、「達成できなかった」(1件)、「よく分からない」(1件)であった。なお、学生の理解度に大きな差があることを指摘した回答はなかった。

(3) 各質問項目の回答傾向 (秋学期)

春学期にはない授業などもあるため個々の回答としては春学期と異なる部分もあるが、全体的な傾向としては春学期と同様である。

設問①：この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか

コア科目では、「基礎的・体系的な知識や考え方を身につけさせる」(16件)といった、当該分野の基礎的・全体的な概要や考え方を理解させる回答が多かった。また、問題演習が必要な科目に関しては、「基本的な計算や論述ができる能力を身につけさせる」(4件)といった、問題処理能力を向上させる回答も多くみられた。簿記検定や公認会計士試験などの資格試験に係る科目では、「資格試験に対応できるだけの知識を身につけさせる」(4件)という回答が目立った。「いくつかのテーマについて具体的な事例を考えながら解説を行う」(5件)という回答も多かった。

その他、「できる限り分かりやすく解説する」(2件)、「興味・関心を惹くようにする」(1件)といった回答もあった。

ベーシック科目では、「特定のテーマについて詳細な解説を行う」(5件)、「いくつかのテーマについて具体的な事例を考えながら解説を行う」(11件)、「条文解釈や法的な考え方を身につけさせる」(2件)であり、春学期と比べて実例を重視している回答が多くなった。

他にも、「基礎的・体系的な知識や考え方を身につけさせる」(13件)という回答も春学

期より多かった。これは、ベーシック科目で初めて学ぶ科目（より入門的な科目がコア科目に設定されておらず、学生はベーシック科目で初めてその分野について学習する科目）で特によく見られた。その他、「グループワーク、発表やディスカッションなどを取り入れる・双方向的な授業を行う」（3件）、「実践的な能力を身につけさせる」（2件）といった回答もあった。

アドバンスト科目では、「実務を紹介する・事例を基に説明する」（14件）など、実際の例を題材にして説明を行う回答が非常に多かった。また、少人数の授業が多いためか、「学生に積極的に質問、発言や討論をさせる」（9件）など、双方向的な授業を志向している回答も非常に多かった。

他には、アドバンスト科目で初めて学ぶ科目では、コア科目やベーシック科目同様、「体系的な知識を理解させる」（4件）という回答も複数見られた。また、「できる限り分かりやすく解説する」（4件）、「問題演習を積極的に行う」（9件）も多かった。

設問②ー（1）：この科目において、実施してよかった点は何ですか

コア科目では、多数の教員が「小テストを実施した点」（10件）を挙げている。小テストの他にも、「宿題やレポート課題を実施した点」（9件）との回答も多かった。小テストとレポートを両方課している授業も複数（6件）見られた。

他には、「分かりやすいようにレジユメを配付した点」（5件）、「パワーポイントで視覚的に分かりやすくした点」（2件）など、分かりやすく理解させる試みを良かった点として挙げた回答もあった。また、積極的に学生に発言させるなどして、「双方向的な授業を行った点」（3件）を挙げた回答もあった。

ベーシック科目では、「小テストを実施した点」（8件）、「宿題やレポート課題を実施した点」（9件）であった。小テストとレポートを両方課している授業も複数（3件）見られた。

授業内容に関して言えば、「実務を紹介した点・事例を基に説明した点」（10件）を挙げた回答が多く、理論と実務との関連性を意識して授業を行っていることがうかがえる。

他には、特に実務や事例を使って解説する授業科目ではグループワーク、発表やディスカッションなどを取り入れ「双方向的な授業を行った点」（3件）を挙げた回答は春学期より減少した。「分かりやすい解説を行った点」（2件）を挙げた回答もあった。

アドバンスト科目では、「実務を紹介した点・事例を基に説明した点」（10件）が最多であった。次に、グループワーク、発表やディスカッションなどを取り入れ「双方向的な授業を行った点」（18件）との回答が大多数だった。

アドバンスト科目の中でも、計算問題が重視される科目等、複雑な問題演習が必要な科目では「小テストを実施した点」（5件）、「問題演習を行った点」（6件）などを挙げた回答

も見られた。

設問②ー（２）：この科目において、改善・工夫をした方がよい点は何ですか

コア科目では、「特になし」（４件）との回答もあったが、授業の進め方に関しては「時間配分を適切に行う」（５件）、「実例をもっと紹介する」（３件）、「配布資料を改善する」（１件）などの回答があった。また、学生への働きかけに関しては「学生の努力を引き出す」（２件）、「討論を増やす・導入する」（２件）、「小テストの回数を増やす」（５件）などの回答があった。

また、「受講者のレベルの差が大きい・受講レベルに達していない学生がいる」（２件）と、教員側からの問題提起も見られた。

ベーシック科目では、「特になし」（２件）、「時間配分を適切に行う」（２件）、「解説するトピックの取捨選択をする・授業内容を見直す」（３件）などの回答もあったが、最も多かったのが学生への働きかけに関する回答で「学生の自主的な学習を促す」（７件）、「学生の積極的な発言を促す」（５件）などの回答が多かった。しかし、「学生の理解の程度に大きな差がある」（２件）、「復習が足りない・意欲に欠ける学生がいる」（３件）など、ディスカッションを行うには難しい状況も存在している。他には、「当該科目の位置づけに対する提案」（１件）、「小テストの回数を増やす・内容を見直す」（３件）などがあった。

アドバンスト科目では、「特になし」（１０件）、「時間配分を適切に行う」（６件）、「個別テーマについてより詳細な解説を行う・扱うテーマを見直す」（４件）、「実例の紹介を増やす」（４件）、「実務経験のない学生にも分かりやすいようにテキストやレジュメを改善する」（３件）などの回答があった。特に、実務経験のない学生に実務上の問題を教える際には各教員とも苦勞して工夫しているようである。また、「質問やディスカッションなど双方向的な学習の時間を増やす」（５件）など、将来的には双方向性を高めたいとする回答も目立った。ただし、ここでも「学生の理解・能力の程度に大きな差がある」（４件）など、学生間の能力の差が大きい事が問題となっているようである。他には、「成績評価の方法の見直し」（１件）、「授業レベルの見直し」（１件）、「論文をたくさん紹介する」（１件）、「授業ガイダンスを改善する」（１件）などの回答があった。

設問③：この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか

コア科目では、「達成できた・ほぼ達成できた」（２２件）、「改善の余地あり」（１件）との結果であった。ただし、授業の目標は達成したけれども、同時に学生の理解度に大きな差があることを将来的な課題として指摘した回答も２件ほどあった。

ベーシック科目では、「達成できた・ほぼ達成できた」(22件)、「達成できなかった」(2件)であった。ただし、コア科目と同様、学生の理解度に大きな差があることを課題として指摘した回答も4件ほどあった。

アドバンスト科目では、「達成できた・ほぼ達成できた」(32件)であった。ただし、学生の理解度に大きな差があることを指摘した回答が5件あった。

(4) 自己評価表の全体的傾向

アカウンティングスクールの担当科目自己評価表から観察される全体的な傾向を箇条書きでまとめると次のようになる。

- 受講生にとって初めて学習する分野の授業(もっと入門的な授業が存在していない授業)では、その分野の基礎的・体系的な知識、基本的な問題演習が解ける能力などを身につけさせようとする回答が目立った。これは、担当教員がその授業の位置づけをよく理解しているからだろう。
- 「実施してよかった点」では小テストや課題レポートなどを実施したことを挙げる回答が多かった。これは、学生の理解度のチェック、成績評価や学生の自学自習への動機づけなどにおいて小テストや課題レポートなどが有効だからだと思われる。
- 実務や実例が重視される授業では、理論と実例とのバランス配分に苦慮している教員が多かった。特に、社会人学生と、学部から進学してきた学生が混在しているクラスで実務に関する授業を行う場合、社会人学生には常識的な知識であっても学部進学生には良く分からないことも多いので苦慮しているようである。
- 受講生間で理解度や能力に大きな格差が生じており、授業の難易度や進む速さについて苦慮している回答が多かった。特に、学習意欲に欠ける学生に対して積極的な学習を促すにはどのように働きかければ良いかについて悩む回答が多くみられた。
- 双方向性のある授業を志向している教員が多かった。なお、質問を絶えず学生に投げかけたり、レポート課題を発表させたり、グループワークやグループディスカッションを導入したりなど、具体的な取り組み方は様々である。
- 計算問題が重視される科目では、問題演習を盛んに実施している。

6. 残された課題

A. 経営戦略専攻企業経営戦略コース

(1) 学生アンケート

経営戦略専攻企業経営戦略コースの学生によるアンケート結果について分析すると、授業への満足度を問う設問13の「この授業は全般的に満足のものでしたか」のスコアは、

通年で 4.25、春学期が 4.23、秋学期が 4.27 となっており、春学期、秋学期、通年とも、学生からの評価の水準は概ね高い水準を維持しているといえる。

他方、過去から見られている全般的な傾向として、教員の授業内容や方法、授業の満足度についての設問のスコア（設問 1～9、設問 12～14）に比較して、学生自身の取り組みについて問うている設問 10 の「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」および設問 11 の「この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか」のスコアが低いことがあげられる。この傾向は、2012 年度も続いており、今回も通年でそれぞれ 4.00、3.80 となり悪化した。今後も継続的な努力が求められる部分である。

また、2012 年度は、各設問に対するスコアは、わずかではあるが前年度より下回った傾向が見られる。通年で見ると、設問 7 と設問 14 以外は、前年度より少し低くなっている。また、過去 4 年の平均と比較しても、通年の平均値は設問 14 を除いて下回っている。スコアの水準自身は概ね高いものであり、全般としては大きな問題ではないと考えるが、コア科目群の平均が、例年に比較して低い傾向となっていたことが影響したものと考えられる。コア科目は、科目数が少ないため、コア科目群全体としてのスコアは、科目数の多いアドバンスト科目群などに比べて、年度ごとの平均値の変化が大きくなりやすい。そういったコア科目群の特徴については十分に考慮しながらも、各担当教員が継続的に努力することが求められるであろう。コア科目群の平均値に関しては、来年度以降も、引き続きチェックしていくべきと考えられる。

（2）教員による担当科目自己評価

経営戦略専攻企業経営戦略コース所属教員による担当科目の自己評価からは、教員は教科を教えるにあたっての様々な工夫や努力を行っており、科目を担当するにあたって当初予定していた目標や自身の思っていた目標は概ね達成されたと考えていることがわかった。

また、「必ずしも履修意欲が高くない学生」「基礎学力不足の受講生」「問題意識の低い履修生」に対する指導や、積極的に討論をしかけたり、学生の主体的関与を促すような指導に対する問題意識を持つ回答が複数みられ、こうした課題が存在するものと考えられる。

B. 経営戦略専攻国際経営コース

（1）学生アンケート

経営戦略専攻国際経営コースの学生による授業評価結果は、多くの質問項目の平均値が 4 点台、「Strongly agree」と「Agree」との間の値となっており、概ね良好であった。しかし、過去 2 年との比較をしてみると 2011 年度よりも全体的に評価が下がっており、2010 年度の評価に逆戻りしている傾向が見受けられる。この 2011 年からの低下傾向が一時的な

ものであるか、学生の数の減少や、国籍構成の変化によるかは不明であるが、今後の評価の傾向を注視すべきである。

個々の質問項目の評価点を詳細に分析すると、質問項目 3 「The instructor's knowledge level was high enough to teach the course.」においては 4.63、質問項目 2 「The instructor was well prepared for the classes.」、質問項目 5 「The instructor encouraged students comment and discussion.」においては 4.47 という高い評価点が見受けられる。これらの教員に対する学生の高い評価は、教員全体が継続的な教育の向上を目指した結果の反映であると考えられる。

一方、比較的低い評価であったのは、質問 11 「You made additional efforts for the course such as searching related materials for course topics.」の 4.15、質問 8 「The course was well organized in terms of contents and time allocation.」の 4.18 であった。上記質問 11 に関してはコースに対する学生の姿勢に対する評価であり、様々な理由が考えられるものの、学生の勉学意欲が低下していることが懸念される。

(2) 教員による担当科目自己評価

経営戦略専攻国際経営コース所属教員による担当科目の自己評価からは、授業評価の結果が秀でていた科目では、昨年同様、視聴覚教材やゲストスピーカーなど多様な素材を授業で活用したコース、学生が興味を持てる事項や現実の社会情勢を授業に織り交ぜたコースなどが、学生のニーズを的確に捉え満足度向上に貢献しているとの結果が見受けられた。

一方で、今後の改善点としては、学生に授業に対して十分な準備をするための工夫ができなかったという回答、グループ議論を活発化させることが大変であるという回答などが注目される。学生の全体数が減少する中、教員と学生とのコミュニケーションは活発化した一方で、学生間の議論の盛り上がりの欠如と、互いの勉学意欲の啓蒙・研鑽に欠けているとの印象を持った教員が多かった。

昨年の評価でも指摘されているが、受講学生の予備知識の統一に関しては、IMC 内での制度的な取り組みが必要かもしれない。また、国際経営コースは、コース選択の自由度が大きく柔軟なカリキュラム制度であるという強みの一方でクラス内での学生知識レベルのばらつきが大きいといった弱点がある。この弱点を克服するため、アドバンスコース選択の前の prerequisite 化を検討する必要があるかもしれない。

来年 2014 年度に全体コースの再編成がなされ、科目間の単位、時間の統一が行われ、ベーシックとアドバンスの科目履修の重複が解消される。そのカリキュラム改変後の評価結果を分析したうえで、制度を見直すかどうか判断をするべきであると思われる。

C. 会計専門職専攻

(1) 学生アンケート

会計専門職専攻の学生によるアンケートの専攻平均値は、2007 年度秋学期まで上昇し続けた後、2008 年度秋学期まで 4.4 ないし 4.5 という値を記録し、その後も、2011 年度まで 4.3 から 4.5 で安定的な推移をしてきた。そして、2012 年度においては 4.6 と、春学期と秋学期ともに、開設以来最も高い値となった。総合的な評価としては高位での安定が図られているものといえよう。

「教員の授業内容と方法」についての設問は、専攻全体の平均値は、設問 7 を除いて、前年度に比して上昇している。特に、設問 1 から設問 3 では、春学期、秋学期ともに 4.8 以上となっており、設問 4 と設問 9 では 4.7 となっている。したがって、担当科目についての資質を有する教員が、シラバスに沿って、資料の作成等を含む十分な準備をして授業に臨んでいることについて、学生から高い評価を得ているといえる結果となっている。設問 5 から設問 8 についても、2011 年度において 0.2 ポイント程度上昇し、2012 年度においても、全般的に上昇している。したがって、授業の方法に関する教員の取り組みに対する評価も高まってきているといえる。

「学生自身の取り組み」を問う設問 10 と設問 11 は、前年同期ベースで、いずれもこれまでで最も高い値となっており、学生自身の予習・復習の取り組み、自分から文献を探すなどの努力について改善したことがうかがえる。ただし、他の設問に比して、いぜん低い値である。これは、学生自身の謙虚な姿勢が表れている可能性があるものの、予習・復習、課題を含めた授業全体の実践に改善の余地があるものともいえ、今後も注視すべき値である。なお、春学期と秋学期を比較すると、春学期での評価が低い傾向にある。春学期入者と秋学期入者との間にキャリアやバックグラウンドの違いがあることが考えられる。

(2) 教員による担当科目自己評価

会計専門職専攻の所属教員に対する担当科目の自己評価から観察できる全体的な傾向を科目群別に整理すると、おおよそ以下のようにまとめることができる。

多人数相手の講義形式が中心のコア・ベーシック科目では、学生の授業の理解度を確認するために、小テストを複数回実施する教員が多かった。また、市販のテキストよりは自作のレジュメをもとにして授業を行う教員が多かった。他には、講義形式ではあるが学生に発言を求める教員が多く、これは講義形式であっても双方向的な授業を志向している教員が多いと考えられる。

少人数相手の講義や演習形式が中心のアドバンスト科目では、実務経験のない学生の興味関心を惹くために参照する事例を身近な例にしたり、積極的に授業に参加させるために

グループワークやグループディスカッションを取り入れたりするなど工夫している教員が多かった。

さらに、担当科目自己評価表から観察されるその他の全体的な傾向を箇条書きでまとめると次のようになる。

- ・受講生にとって初めて学習する分野の授業（もっと入門的な授業が存在していない授業）では、その分野の基礎的・体系的な知識、基本的な問題演習が解ける能力などを身につけさせようとする回答が目立った。
- ・「実施してよかった点」では小テストや課題レポートなどを実施したことを挙げる回答が多かった。
- ・実務や実例が重視される授業では、理論と実例とのバランス配分に苦慮している教員が多かった。特に、社会人学生と、学部から進学してきた学生が混在しているクラスで実務に関する授業を行う場合、社会人学生には常識的な知識であっても学部進学生には良く分からないことも多いので苦労しているようである。
- ・受講生間で理解度や能力に大きな格差が生じており、授業の難易度や進む速さについて苦慮している回答が多かった。特に、学習意欲に欠ける学生に対して積極的な学習を促すにはどのように働きかければ良いかについて悩む回答が多くみられた。
- ・双方向性のある授業を志向している教員が多かった。
- ・計算問題が重視される科目では、問題演習を盛んに実施している。

「受講生の理解度の差が大きい」、「知識が受講レベルに達していない学生がいる」といった担当教員の意見については、個々の教員の問題というよりは会計大学院全体の問題とも言える。今後、このような学生に対し、どのようにして学習を促していくかは残された課題と言えよう。

なお、本研究科では、FD活動として、以下に紹介する定期的なFD研修会を開催するとともに、教員の研究活動、実務活動を『ビジネス&アカウンティング・レビュー』へ掲載することにより、教員の研鑽を促すような工夫をしてきた。

以下では、前者のFD研修会について、テーマと講演者を記載する。

- ・5月9日（水）「Best Practice (Worst Practice)の紹介」
上田耕治 経営戦略研究科教授
小高久仁子 経営戦略研究科准教授
David Methé 経営戦略研究科教授
吉川郁夫 経営戦略研究科教授
- ・7月4日（水）「Best Practice (Worst Practice)の紹介」

大内章子 経営戦略研究科准教授

岡本智英子 経営戦略研究科教授

加藤雄士 経営戦略研究科教授

前田祐治 経営戦略研究科准教授

・10月24日(水)「Best Practice (Worst Practice)の紹介」

Norlia Ahmad 経営戦略研究科准教授

梅本春夫 経営戦略研究科教授

徳崎 進 経営戦略研究科教授

山中俊之 経営戦略研究科教授

・11月28日(水)「Best Practice (Worst Practice)の紹介」

鈴木 修 経営戦略研究科准教授

中島稔哲 経営戦略研究科准教授

羽室行信 経営戦略研究科准教授

山地範明 経営戦略研究科教授

・2013年1月9日(水)「Best Practice (Worst Practice)の紹介」

西尾宇一郎 経営戦略研究科教授

油谷博司 経営戦略研究科教授

今般の学生による授業評価アンケート、教員による担当科目自己評価や試験結果を再度吟味することにより、客観的な自己評価を継続していくことが期待される。また、そうした自己評価に加えて、FD活動も継続して行われることが期待される。

以 上

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科
自己評価委員会

コンピーナー 加藤 雄士

2012年度 授業評価アンケート実施授業科目一覧

講義コード	科目名	クラス名	教員名	曜日	時限	履修者数
	経営戦略専攻 企業経営戦略コース					
97101001	企業倫理	1	田中 政光	金曜日	6時限	33
97101002	企業倫理	2	田中 政光	金曜日	6時限	31
97102001	経営学	1	小高 久仁子	月曜日	6時限	38
97102002	経営学	2	鈴木 修	金曜日	6時限	17
97102003	経営学	3	田中 政光	金曜日	6時限	11
97103001	会計学	1	橋爪 健治	日曜日	3時限	23
97103002	会計学	2	橋爪 健治	月曜日	6時限	27
97104001	経済学	1	新庄 浩二	木曜日	6時限	25
97104002	経済学	2	新庄 浩二	土曜日	1時限	22
97105001	統計学	1	羽室 行信	土曜日	6時限	33
97105002	統計学	2	羽室 行信	日曜日	5時限	21
97106001	英語コミュニケーション	1	マーク シニア	水曜日	6時限	20
97106002	英語コミュニケーション	2	マーク シニア	水曜日	6時限	14
97106003	英語コミュニケーション	3	マーク シニア	水曜日	6時限	14
97106004	英語コミュニケーション	4	マーク シニア	水曜日	6時限	10
97151001	経営戦略	1	小高 久仁子	月曜日	6時限	33
97151002	経営戦略	2	小高 久仁子	木曜日	6時限	13
97151003	経営戦略	3	小高 久仁子	木曜日	6時限	10
97152001	人的資源開発	1	大内 章子	土曜日	3時限	25
97152002	人的資源開発	2	大内 章子	火曜日	6時限	24
97152500	組織行動		北居 明	火曜日	6時限	29
97153001	マーケティング・マネジメント	1	佐藤 善信	火曜日	6時限	32
97153002	マーケティング・マネジメント	2	佐藤 善信	金曜日	6時限	15
97154001	ファイナンス	1	甲斐 良隆	月曜日	6時限	20
97154002	ファイナンス	2	甲斐 良隆	土曜日	3時限	34
97155001	企業ファイナンス	1	岡田 克彦	日曜日	5時限	8
97155002	企業ファイナンス	2	岡田 克彦	土曜日	6時限	19
97156000	管理会計		徳崎 進	金曜日	6時限	18
97157001	財務諸表分析	1	徳崎 進	土曜日	1時限	17
97157002	財務諸表分析	2	徳崎 進	火曜日	6時限	13
97158001	テクノロジー・マネジメント	1	玉田 俊平太	日曜日	5時限	10
97158002	テクノロジー・マネジメント	2	玉田 俊平太	木曜日	6時限	20
97159000	情報システム		羽室 行信	金曜日	6時限	7
97160000	生産システム		加藤 直樹	土曜日	1時限	10
97161001	ベンチャービジネス	1	佐竹 隆幸	土曜日	1時限	21
97161002	ベンチャービジネス	2	佐竹 隆幸	春集中	集中	43
97162000	行動科学		山本 昭二	月曜日	6時限	8
97163000	統計分析論		有馬 昌宏	火曜日	6時限	10
97163500	ゲーム理論		甲斐 良隆	月曜日	6時限	35
97164000	産業組織論		新庄 浩二	土曜日	3時限	5
97165000	国際経済学		中西 訓嗣	金曜日	6時限	7
97165500	クリティカル・シンキング		佐藤 善信	土曜日	1時限	31
97166000	会社法		大和 正史	月曜日	6時限	14
97167001	上級英語コミュニケーション	1	ジョセフ シーハン	土曜日	3時限	7
97167002	上級英語コミュニケーション	2	ジョセフ シーハン	土曜日	3時限	2
97201000	企業経営史		宮本 又郎	水曜日	6時限	9
97202000	企業家論		宮本 又郎	水曜日	6時限	16
97203000	組織管理 (BS)		松田 陽一	その他	集中	48
97203000	組織管理 (AS)		松田 陽一	その他	集中	11
97203500	人材マネジメント		大内 章子	土曜日	3時限	19
97204000	国際比較経営		吉原 英樹	水曜日	6時限	15
97205000	NPOマネジメント (BS)		太田 康嗣	金曜日	6時限	6
97206000	事業システム戦略論		金井 一頼	木曜日	6時限	23
97207000	組織管理事例研究		小美野 広行	土曜日	3時限	26
97208001	経営戦略事例研究	1	小美野 広行	土曜日	3時限	23
97208002	経営戦略事例研究	2	小美野 広行	土曜日	3時限	20
97209000	サービス・マーケティング		山本 昭二	水曜日	6時限	10
97210000	チャネル・マネジメント		山本 昭二	月曜日	6時限	8
97211000	ブランド・マネジメント		梅本 春夫	土曜日	6時限	16
97212001	マーケティング・コミュニケーション	1	梅本 春夫	春集中	集中	18
97212002	マーケティング・コミュニケーション	2	梅本 春夫	土曜日	6時限	10
97213000	マーケティング戦略		佐藤 善信	日曜日	5時限	14
97214000	流通システム		山本 昭二	土曜日	6時限	9
97215000	消費者行動		徳山 美津恵	土曜日	1時限	11
97216000	ロジスティクス		伊藤 秀和	木曜日	6時限	6
97217000	国際マーケティング		藤沢 武史	木曜日	6時限	14
97218000	マーケティング・リサーチ		高橋 広行	火曜日	6時限	12
97218500	Special Topics in Marketing (CSMC)		佐藤 善信	火曜日	6時限	6
97219000	金融工学		甲斐 良隆	木曜日	6時限	21

講義コード	科目名	クラス名	教員名	曜日	時限	履修者数
97222000	証券投資		岡田 克彦	木曜日	6時限	11
97224000	金融商品		甲斐 良隆	月曜日	6時限	16
97224500	行動ファイナンス		岡田 克彦	金曜日	6時限	8
97226000	リスクマネジメント		ジョン ホング	火曜日	6時限	7
97228000	金融商品取引法		小林 章博	水曜日	6時限	3
97229000	金融機関経営		ジョン ホング	火曜日	6時限	2
97229100	Special Topics in Finance (CSMC)		岡田 克彦	火曜日	6時限	2
97230000	イノベーション経営		玉田 俊平太	日曜日	5時限	17
97231000	製品開発		服部 宏紀	土曜日	3時限	10
97232000	データマイニング		羽室 行信	日曜日	5時限	3
97233002	製品開発事例研究	2	服部 宏紀	土曜日	3時限	7
97233100	標準化経営戦略		松本 隆	土曜日	3時限	8
97234000	アントレプレナーシップ		太田 一樹	土曜日	6時限	9
97235000	eビジネス事例研究		吉田 雅紀	月曜日	6時限	12
97236000	起業家マインド		吉田 雅紀	月曜日	6時限	8
97237000	ベンチャービジネス事例研究		吉田 雅紀	土曜日	1時限	14
97238000	企業倫理事例研究		石田 寛	月曜日	6時限	6
97240000	ITマネジメント		湯浅 忠	水曜日	6時限	10
97241000	知的財産権法		小南 典子	土曜日	1時限	6
97241100	研究開発型ベンチャー創成		佐藤 善信	春集中	集中	35
97244200	企業経営戦略特論D		村上 路一	水曜日	6時限	10
97244400	企業経営戦略特論E		甲斐 良隆	土曜日	3時限	14
97244600	企業経営戦略特論F		登坂 一博	その他	集中	15
97244700	企業経営戦略特論G		児玉 文雄	土曜日	3時限	13
97245001	課題研究基礎	1	大内 章子	土曜日	3時限	5
97245002	課題研究基礎	2	岡田 克彦	春集中	集中	7
97245003	課題研究基礎	3	小高 久仁子	その他	集中	3
97245004	課題研究基礎	4	甲斐 良隆	その他	集中	25
97245005	課題研究基礎	5	佐藤 善信	日曜日	5時限	2
97245006	課題研究基礎	6	羽室 行信	日曜日	5時限	5
97245007	課題研究基礎	7	山本 昭二	その他	集中	5
97246001	課題研究	1	大内 章子	土曜日	1時限	2
97246002	課題研究	2	大内 章子	土曜日	1時限	4
97246004	課題研究	4	岡田 克彦	日曜日	3時限	1
97246005	課題研究	5	小高 久仁子	土曜日	1時限	2
97246006	課題研究	6	小高 久仁子	土曜日	1時限	5
97246007	課題研究	7	甲斐 良隆	土曜日	1時限	3
97246008	課題研究	8	甲斐 良隆	土曜日	1時限	3
97246009	課題研究	9	佐藤 善信	日曜日	3時限	4
97246010	課題研究	10	佐藤 善信	日曜日	3時限	6
97246011	課題研究	11	玉田 俊平太	日曜日	3時限	4
97246012	課題研究	12	玉田 俊平太	日曜日	3時限	5
97246014	課題研究	14	羽室 行信	日曜日	3時限	1
97246015	課題研究	15	山本 昭二	土曜日	1時限	4
97246016	課題研究	16	山本 昭二	土曜日	1時限	4
97246018	課題研究	18	田中 政光	土曜日	1時限	8
	経営戦略専攻 国際経営コース					
97218500	Special Topics in Marketing (IMC)		佐藤 善信	火曜日	6時限	6
97229100	Special Topics in Finance (IMC)		岡田 克彦	火曜日	6時限	5
97301001	Business Ethics	1	石田 寛	月曜日	1時限	8
97301002	Business Ethics	2	石田 寛	月曜日	1時限	11
97302001	Management	1	鈴木 修	金曜日	3時限	10
97302002	Management	2	鈴木 修	月曜日	4時限	3
97303001	Accounting for Decision Making	1	李 貞希	金曜日	1時限	12
97303002	Accounting for Decision Making	2	李 貞希	火曜日	2時限	6
97304001	Business Economics	1	新庄 浩二	水曜日	1時限	12
97304002	Business Economics	2	油谷 博司	木曜日	2時限	6
97305001	Statistics	1	竹澤 直哉	火曜日	2時限	3
97305002	Statistics	2	前田 祐治	木曜日	3時限	6
97306001	English Communication	1	マーク シニア	水曜日	3時限	14
97306002	English Communication	2	マーク シニア	水曜日	3時限	5
97351000	Making Ethical Decisions		石田 寛	月曜日	5時限	8
97352000	Corporate Strategy		デヴィッド メッセイ	木曜日	2時限	11
97353000	Designing Organizational Systems		鈴木 修	金曜日	3時限	3
97354001	International Management	1	デヴィッド メッセイ	木曜日	2時限	5
97354002	International Management	2	デヴィッド メッセイ	木曜日	3時限	9
97355000	Leadership and Corporate Renewal		デヴィッド メッセイ	月曜日	4時限	9
97356001	Marketing Management	1	ノーリア アハマド	木曜日	4時限	6
97356002	Marketing Management	2	ノーリア アハマド	木曜日	4時限	4
97357000	Marketing Strategy		佐藤 善信	火曜日	3時限	9
97358001	Principles of Finance	1	油谷 博司	火曜日	4時限	4
97358002	Principles of Finance	2	油谷 博司	火曜日	3時限	4

講義コード	科目名	クラス名	教員名	曜日	時限	履修者数
97359001	Corporate Finance	1	前田 祐治	木曜日	3時限	2
97359002	Corporate Finance	2	前田 祐治	月曜日	5時限	2
97360001	Financial Reporting and Analysis	1	李 貞希	火曜日	2時限	10
97360002	Financial Reporting and Analysis	2	李 貞希	火曜日	3時限	1
97362000	Advanced English for Business Studies		ジョセフ シーハン	土曜日	3時限	9
97363000	Advanced English for Business Practice		ジョセフ シーハン	土曜日	3時限	12
97401000	Technology Management		デヴィッド メッセイ	木曜日	4時限	5
97404000	Organizational Behavior		鈴木 修	火曜日	3時限	2
97405000	Human Resource Management		関口 倫紀	火曜日	3時限	4
97405100	Business Negotiation		ジョセフ シーハン	土曜日	1時限	8
97405200	Information Management for Decision Making		ジャフアー フセイニ	土曜日	3時限	2
97406000	Marketing Research		中西 正雄	木曜日	4時限	2
97407000	Marketing Case Analysis		ノーリア アハマド	月曜日	3時限	3
97408000	Product Innovation (IMC)		玉田 俊平太	土曜日	6時限	2
97408000	Product Innovation (CSMC)		玉田 俊平太	土曜日	6時限	7
97409002	International Marketing Practice	2	M. J. グルーバル	火曜日	2時限	6
97411001	Marketing Communication	1	北村 秀実	金曜日	4時限	3
97411002	Marketing Communication	2	北村 秀実	金曜日	4時限	4
97411100	Service Marketing		ノーリア アハマド	月曜日	3時限	3
97412000	Financial Risk Management		前田 祐治	月曜日	3時限	4
97413000	Financial Institutions Management		前田 祐治	木曜日	3時限	1
97414000	Capital Markets		油谷 博司	金曜日	3時限	1
97416000	Portfolio Management		ジョン ホング	水曜日	1時限	6
97418000	International Accounting		梶原 晃	土曜日	1時限	4
97419000	Managerial Accounting		徳崎 進	火曜日	4時限	3
97419100	Asian Financial Market		ジョン ホング	水曜日	1時限	6
97419200	Japanese Financial Practice		前田 祐治	月曜日	1時限	1
97419300	Accounting Theory and Practice		児島 幸治	水曜日	3時限	2
97420000	Management Information Systems		宗平 順己	土曜日	1時限	11
97422000	Japanese Business		石井 竜馬	月曜日	4時限	3
97423000	Practitioner Perspectives on Management		冬野 勝紀	金曜日	2時限	1
97424000	Advanced Topics in Business A		ノーリア アハマド	木曜日	2時限	6
97425000	Advanced Topics in Business B		北村 秀実	金曜日	6時限	3
97426000	Advanced Topics in Business C		小田部 正明	春集中	集中	8
97428000	Advanced Topics in Business E		ジャフアー フセイニ	火曜日	5時限	1
97428500	Advanced Topics in Business F		デヴィッド メッセイ	土曜日	3時限	9
97429001	Group Research Project	1	ノーリア アハマド	木曜日	2時限	2
97429002	Group Research Project	2	李 貞希	火曜日	2時限	1
97429004	Group Research Project	4	デヴィッド メッセイ	月曜日	4時限	4
97429005	Group Research Project	5	鈴木 修	木曜日	1時限	1
97429006	Group Research Project	6	油谷 博司	木曜日	1時限	2
97430002	Individual Research	2	ノーリア アハマド	月曜日	1時限	1
97430003	Individual Research	3	李 貞希	火曜日	3時限	2
97430004	Individual Research	4	李 貞希	火曜日	4時限	1
97430006	Individual Research	6	前田 祐治	月曜日	1時限	1
97430008	Individual Research	8	デヴィッド メッセイ	月曜日	1時限	3
97430009	Individual Research	9	中西 正雄	水曜日	3時限	2
97430010	Individual Research	10	中西 正雄	水曜日	3時限	1
97430012	Individual Research	12	鈴木 修	金曜日	1時限	1
97430014	Individual Research	14	油谷 博司	火曜日	1時限	2
	会計専門職専攻					
97205000	NPOマネジメント (AS)		太田 康嗣	金曜日	6時限	2
97511001	国際会計論	1	杉本 徳栄	金曜日	3時限	24
97511002	国際会計論	2	杉本 徳栄	土曜日	1時限	19
97511003	国際会計論	3	杉本 徳栄	火曜日	3時限	14
97511004	国際会計論	4	杉本 徳栄	土曜日	1時限	6
97512000	簿記原理		山地 範明	土曜日	3時限	9
97513001	簿記基礎	1	加藤 雄士	土曜日	3時限	7
97513002	簿記基礎	2	加藤 雄士	土曜日	3時限	6
97514001	簿記	1	中島 稔哲	木曜日	6時限	24
97514002	簿記	2	中島 稔哲	木曜日	1時限	15
97514003	簿記	3	中島 稔哲	土曜日	5時限	10
97514004	簿記	4	中島 稔哲	木曜日	1時限	12
97514300	会計学原理		林 隆敏	土曜日	1時限	12
97514601	会計学	1	中島 稔哲	土曜日	1時限	8
97514602	会計学	2	中島 稔哲	土曜日	3時限	3
97516001	財務会計論	1	山地 範明	土曜日	1時限	7
97516002	財務会計論	2	山地 範明	火曜日	1時限	16
97516003	財務会計論	3	山地 範明	土曜日	1時限	11
97516004	財務会計論	4	山地 範明	月曜日	1時限	7
97532001	管理会計論	1	浜田 和樹	火曜日	1時限	12
97532002	管理会計論	2	浜田 和樹	火曜日	6時限	17

講義コード	科目名	クラス名	教員名	曜日	時限	履修者数
97532003	管理会計論	3	浜田 和樹	金曜日	1時限	11
97532004	管理会計論	4	浜田 和樹	土曜日	1時限	6
97532501	工業簿記基礎	1	引地 夏奈子	土曜日	1時限	8
97532502	工業簿記基礎	2	引地 夏奈子	土曜日	1時限	10
97533501	工業簿記	1	吉川 郁夫	土曜日	3時限	14
97533502	工業簿記	2	吉川 郁夫	土曜日	1時限	7
97534001	原価計算論	1	西尾 宇一郎	土曜日	5時限	8
97534002	原価計算論	2	西尾 宇一郎	土曜日	3時限	25
97534003	原価計算論	3	西尾 宇一郎	月曜日	6時限	13
97534004	原価計算論	4	西尾 宇一郎	土曜日	3時限	11
97551001	会計倫理	1	西尾 宇一郎	月曜日	3時限	28
97551002	会計倫理	2	西尾 宇一郎	土曜日	5時限	11
97551003	会計倫理	3	西尾 宇一郎	土曜日	3時限	8
97551004	会計倫理	4	西尾 宇一郎	月曜日	6時限	7
97552001	監査論	1	上田 耕治	木曜日	1時限	14
97552002	監査論	2	上田 耕治	土曜日	1時限	22
97552003	監査論	3	上田 耕治	木曜日	3時限	18
97552004	監査論	4	上田 耕治	土曜日	3時限	9
97561000	経済学		三木 潤一	木曜日	1時限	9
97562001	経営学	1	加藤 雄士	土曜日	1時限	8
97562002	経営学	2	加藤 雄士	土曜日	1時限	7
97563001	I T基礎	1	吉川 郁夫	金曜日	1時限	28
97563002	I T基礎	2	吉川 郁夫	木曜日	6時限	25
97564000	地方行財政基礎		稲澤 克祐	火曜日	1時限	3
97580501	企業法基礎	1	池島 真策	火曜日	6時限	10
97580502	企業法基礎	2	池島 真策	火曜日	6時限	19
97581001	企業法	1	岡本 智英子	月曜日	3時限	3
97581002	企業法	2	岡本 智英子	月曜日	6時限	1
97581003	企業法	3	岡本 智英子	月曜日	1時限	2
97581004	企業法	4	岡本 智英子	月曜日	6時限	5
97582001	租税法基礎	1	西尾 宇一郎	月曜日	6時限	25
97582002	租税法基礎	2	西尾 宇一郎	土曜日	5時限	10
97583001	法人税法	1	西尾 宇一郎	月曜日	6時限	39
97583002	法人税法	2	西尾 宇一郎	土曜日	5時限	10
97584000	地方税基礎		横山 直子	土曜日	1時限	12
97611001	簿記応用	1	山地 範明	月曜日	1時限	7
97611002	簿記応用	2	山地 範明	金曜日	1時限	5
97612001	会計基準論	1	中島 稔哲	金曜日	3時限	7
97612002	会計基準論	2	中島 稔哲	金曜日	6時限	10
97613101	国際会計基準論A	1	杉本 徳栄	金曜日	6時限	6
97613102	国際会計基準論A	2	杉本 徳栄	金曜日	3時限	9
97613501	国際会計基準論B	1	杉本 徳栄	土曜日	3時限	7
97613502	国際会計基準論B	2	杉本 徳栄	火曜日	3時限	7
97614001	連結財務諸表論	1	山地 範明	月曜日	1時限	10
97614002	連結財務諸表論	2	山地 範明	火曜日	6時限	13
97615001	会計制度論	1	吉川 郁夫	火曜日	3時限	29
97615002	会計制度論	2	吉川 郁夫	土曜日	1時限	12
97616001	国際公会計論	1	稲澤 克祐	土曜日	3時限	7
97616002	国際公会計論	2	稲澤 克祐	その他	集中	3
97619001	公会計論	1	稲澤 克祐	土曜日	5時限	10
97619002	公会計論	2	稲澤 克祐	火曜日	6時限	10
97631001	予算管理論	1	徳崎 進	火曜日	6時限	5
97631002	予算管理論	2	徳崎 進	火曜日	3時限	12
97632101	原価管理論	1	玉置 求己	土曜日	5時限	9
97632102	原価管理論	2	玉置 求己	土曜日	5時限	3
97633001	財務分析	1	井上 浩一	金曜日	6時限	14
97633002	財務分析	2	井上 浩一	金曜日	6時限	12
97651001	監査制度論	1	上田 耕治	土曜日	5時限	8
97651002	監査制度論	2	上田 耕治	木曜日	3時限	10
97651500	監査概念論		林 隆敏	木曜日	3時限	23
97652001	監査基準論	1	野呂 貴生	土曜日	5時限	23
97652002	監査基準論	2	野呂 貴生	土曜日	5時限	15
97653001	国際監査論	1	吉川 郁夫	木曜日	6時限	18
97653002	国際監査論	2	吉川 郁夫	月曜日	3時限	16
97661000	経済政策		伊藤 達也	春集中	集中	27
97662001	財政学	1	三木 潤一	水曜日	6時限	15
97662002	財政学	2	三木 潤一	木曜日	1時限	5
97663000	統計学		甲斐 良隆	木曜日	3時限	9
97664000	ファイナンス		甲斐 良隆	木曜日	3時限	19
97665001	経営管理論	1	加藤 雄士	土曜日	3時限	8
97665002	経営管理論	2	加藤 雄士	土曜日	1時限	2
97667001	経営財務論	1	加藤 雄士	土曜日	1時限	4

講義コード	科目名	クラス名	教員名	曜日	時限	履修者数
97667002	経営財務論	2	加藤 雄士	土曜日	3時限	6
97668001	ビジネスコミュニケーション	1	マーク シニア	水曜日	3時限	5
97668002	ビジネスコミュニケーション	2	マーク シニア	水曜日	3時限	9
97669001	行政経営論	1	武久 顕也	金曜日	6時限	2
97669002	行政経営論	2	諏訪 一夫	土曜日	3時限	1
97669500	I T統制		木村 安寿	春集中	集中	37
97681001	民法	1	松野 友芳	金曜日	3時限	4
97681002	民法	2	松野 友芳	金曜日	6時限	10
97682001	商法	1	岡本 智英子	土曜日	3時限	5
97682002	商法	2	岡本 智英子	火曜日	1時限	2
97683001	会社法	1	岡本 智英子	土曜日	1時限	3
97683002	会社法	2	岡本 智英子	月曜日	1時限	2
97685001	金融商品取引法	1	田中 庸介	水曜日	6時限	16
97685002	金融商品取引法	2	田中 庸介	水曜日	6時限	25
97686001	所得税法・消費税法	1	井村 登	春集中	集中	23
97686002	所得税法・消費税法	2	井村 登	月曜日	6時限	17
97687000	租税法実務		瀬戸口 有雄	金曜日	6時限	15
97711500	英文会計		前原 啓二	水曜日	6時限	25
97713001	中小社会会計論	1	瀬戸口 有雄	金曜日	6時限	24
97713002	中小社会会計論	2	瀬戸口 有雄	金曜日	6時限	14
97714000	環境会計論		阪 智香	木曜日	3時限	4
97715000	地方自治体財務会計論		遠藤 尚秀	土曜日	1時限	5
97715500	地方公営企業会計論		菊池 明敏	その他	集中	5
97716500	非営利法人会計論		稲澤 克祐	土曜日	1時限	11
97717500	簿記課題研究		中島 稔哲	火曜日	6時限	8
97718500	財務会計課題研究		山地 範明	月曜日	6時限	2
97719000	公会計課題研究		稲澤 克祐	土曜日	3時限	2
97720000	財務会計事例研究		高谷 晋介	その他	集中	10
97720500	公会計事例研究		田谷 聡	春集中	集中	3
97721000	企業内容開示論		上田 耕治	火曜日	6時限	6
97722000	ビジネス会計論		山地 範明	木曜日	6時限	20
97722500	英文会計事例研究		笠岡 恵理子	火曜日	6時限	3
97724000	財務会計論文指導Ⅲ		杉本 徳栄	火曜日	7時限	3
97724500	財務会計論文指導Ⅳ		杉本 徳栄	火曜日	7時限	2
97731001	意思決定会計論	1	浜田 和樹	土曜日	1時限	17
97731002	意思決定会計論	2	浜田 和樹	木曜日	1時限	24
97731501	業績評価会計論	1	浜田 和樹	月曜日	3時限	20
97731502	業績評価会計論	2	浜田 和樹	木曜日	6時限	30
97732000	会計情報システム		木村 安寿	土曜日	5時限	26
97733000	地方自治体原価計算論		遠藤 尚秀	土曜日	3時限	5
97734000	地方自治体管理会計論		石原 俊彦	土曜日	1時限	2
97735000	地方自治体予算管理論		稲澤 克祐	土曜日	3時限	15
97735500	地方自治体財務分析		田谷 聡	土曜日	3時限	9
97736000	管理会計課題研究		浜田 和樹	木曜日	6時限	7
97736500	原価計算課題研究		玉置 求己	水曜日	6時限	9
97737000	管理会計事例研究		徳崎 進	月曜日	6時限	6
97737500	管理会計特別講義A		門田 安弘	その他	集中	8
97751501	内部統制論	1	吉川 郁夫	金曜日	1時限	23
97751502	内部統制論	2	吉川 郁夫	木曜日	6時限	15
97752000	地方自治体内部統制論		石原 俊彦	その他	集中	12
97752500	システム監査		木村 安寿	土曜日	5時限	15
97752901	内部監査論	1	吉川 郁夫	月曜日	6時限	24
97752902	内部監査論	2	吉川 郁夫	月曜日	1時限	9
97754000	地方自治体監査論		石原 俊彦	土曜日	1時限	3
97754500	行政評価論		稲澤 克祐	土曜日	5時限	6
97755500	監査課題研究		上田 耕治	木曜日	3時限	2
97756500	監査事例研究		井上 浩一	金曜日	6時限	4
97761000	地方財政論		稲澤 克祐	土曜日	1時限	5
97762500	企業ファイナンス		徳崎 進	木曜日	6時限	4
97763000	経営戦略		上野 恭裕	その他	集中	8
97765001	コーポレート・ガバナンス	1	伊藤 達也	月曜日	6時限	14
97765002	コーポレート・ガバナンス	2	伊藤 達也	その他	集中	10
97766500	地方自治体ファイナンス		瀬崎 陵	春集中	集中	6
97767000	地方自治体情報システム		木村 公則	その他	集中	6
97767500	地方自治体マーケティング		武久 顕也	金曜日	6時限	3
97768000	行政経営資源論		平野 誠也	金曜日	6時限	5
97768501	行政経営事例研究	1	山中 俊之	金曜日	6時限	4
97768502	行政経営事例研究	2	田谷 聡	春集中	集中	3
97769000	地方自治体人事管理論		山中 俊之	土曜日	5時限	7
97769501	海外行政経営事情	1	石原 俊彦	春集中	集中	4
97769502	海外行政経営事情	2	石原 俊彦	土曜日	3時限	4
97770000	地方自治体人材開発論		山中 俊之	土曜日	5時限	7

講義コード	科目名	クラス名	教員名	曜日	時限	履修者数
97770500	地方自治体組織論		山之内 稔	その他	集中	3
97771500	経営学課題研究		加藤 雄士	金曜日	6時限	4
97772000	地方行財政事例研究		稲澤 克祐	火曜日	1時限	2
97772500	経営学特別講義A		武久 顕也	春集中	集中	6
97781500	倒産処理法		田中 庸介	水曜日	6時限	16
97782000	知的財産権法		諏訪野 大	水曜日	6時限	9
97782500	信託法		杉浦 宣彦	春集中	集中	17
97783501	企業法要説	1	朝沼 晃	水曜日	3時限	7
97783502	企業法要説	2	朝沼 晃	水曜日	6時限	13
97783503	企業法要説	3	朝沼 晃	水曜日	3時限	5
97784500	税務申告実務		吉田 愛	土曜日	5時限	20
97785500	租税法課題研究		西尾 宇一郎	月曜日	3時限	10
97786500	企業法課題研究		岡本 智英子	月曜日	1時限	3
97787500	租税法事例研究		井村 登	月曜日	6時限	3
97788000	会社法事例研究		池島 真策	火曜日	6時限	2
97788500	地方税実務		長行司 匡史	土曜日	5時限	6

Class Evaluation questionnaire sheet

This evaluation is conducted for the purpose of educational development to improve the course. This survey will not affect your grades. Please be honest and considerate in your answers.

- NOTES**
1. Use HB pencil or mechanical pencil.
 2. Erase errors clearly with an eraser.
 3. Do not fold or damage the sheet.

Example

Good ● Bad ✓ ⊖ ✕ ● ○
Too weak

Course title	
Instructor	
Class	Day

Year	<input type="radio"/> First	<input type="radio"/> Second	<input type="radio"/> Third
School	<input type="radio"/> BS	<input type="radio"/> AS	<input type="radio"/> Other
Undergrad major	<input type="radio"/> Commerce/Economics/Management	<input type="radio"/> Other Social Science	<input type="radio"/> Science/Engineering
	<input type="radio"/> Humanities	<input type="radio"/> Other	<input type="radio"/> Other
Career	<input type="radio"/> None	<input type="radio"/> Less than 3 years	<input type="radio"/> 3-7 years
	<input type="radio"/> 7-20 years	<input type="radio"/> More than 20 year	
Will you take up exam?	<input type="radio"/> Yes	<input type="radio"/> No	

Description

a) Describe good points of the course in detail.

b) Describe your suggestions in detail for further improving the course.

c) Describe any further comments you have concerning the course.

	Strongly agree	Agree	Neutral	Disagree	Strongly disagree	No answer
1 The course met the objectives and topics described in the syllabus.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
2 The instructor was well prepared for the classes.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
3 The instructor's knowledge level was high enough to teach the course.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
4 The prescribed textbooks and teaching materials were helpful for your learning.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
5 The instructor encouraged students comment and discussion.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
6 Instructor's interest in whether students learned was high.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
7 The amount of work assigned was reasonable.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
8 The course was well organized in terms of contents and time allocation.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
9 The instructor answered students' questions clearly and sufficiently.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
10 You prepared and reviewed thoroughly for the classes.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
11 You made additional efforts for the course such as searching related materials for course topics.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
12 You have obtained analytical abilities and critical thinking from the course.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
13 Overall, you are satisfied with the course, and recommend it to your fellow students.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
14 Course content were highly relevant and useful for your future career.	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0
15	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 0

Thank you for your cooperation.

